

第2章 「滋賀県への定着等に関する大学生意識調査」の結果と分析

1. 調査の概要

1-1. 調査手法と回答率

滋賀県内の全大学に協力を依頼し、2017年11月1日～12月1日にかけて「滋賀県への若者の定着等に関する大学生・短期大学生への意識調査」を行った。質問項目は基本的属性のほか、就職に関する意識、起業に関する意識、定住に関する意識、滋賀県のイメージなど、就職を中心に滋賀県での生活まで多岐にわたる。調査方法は、各大学・短期大学において、学部・研究科・本科ごとに割当てられた「学生用の回答の手引」を、教員等に協力を得て授業やゼミなどの機会を通じてできるだけ学年が異なるように学生7000人に配布し、インターネットでの回答を求めた。

下記にID配布数と回収率について示した(表1-1)。全体の回収率は20.1%であるが、滋賀医科大学の8.8%から滋賀文教短期大学の84.8%まで学校によってばらつきがある。

表1-1. ID配布数と回収率(学校別)¹

回答数集計表	回答数	回答率	ID配布数
滋賀大学(大津)	53	21.6%	245
滋賀大学(彦根)	73	13.0%	562
滋賀医科大学	21	8.8%	240
滋賀県立大学	193	32.8%	588
龍谷大学	232	17.5%	1323
立命館大学	330	11.3%	2929
成安造形大学	95	53.1%	179
聖泉大学	84	67.7%	124
長浜バイオ大学	32	13.5%	237
びわこ成蹊スポーツ大学	179	60.3%	297
びわこ学院大学	20	16.9%	118
滋賀短期大学	66	52.8%	125
滋賀文教短期大学	28	84.8%	33
合計	1406	20.1%	7000

¹ 龍谷大学については233名が回答したが1名の回答行動に不審な点があったために欠損値として扱った。

1-2. 単純集計に基づく回答者の特徴

まず回答者の性別をみると、性別はほぼ半々であり、男女とも偏りなく意見が収集出来ていることが確認できる（図 1-1）。

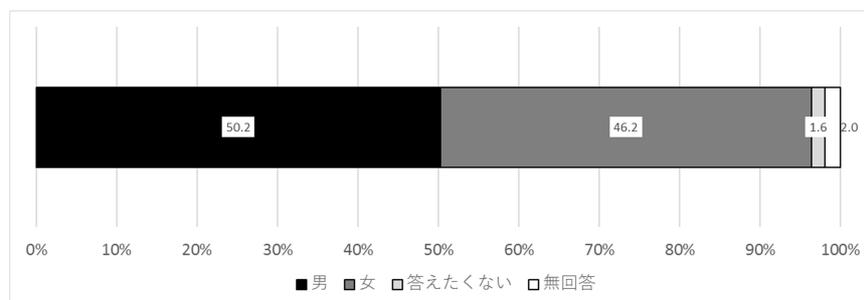


図 1-1. 回答者の性別 (n=1406)

次に学年の内訳についてみると、大学については学部 1 年生が 28.5%と最も多く、学部 4 年生以上が 13.4%と若干少ないものの、2 年生、3 年生ともに満遍なく取れている（図 1-2）。短大生や大学院生についても、割合としては少ないが、そもそもの人数が少ないため、妥当な数だと考えられる。

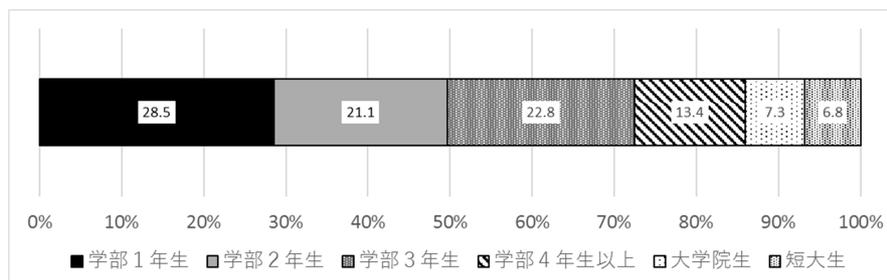


図 1-2. 回答者の学年 (n=1406)

回答者の学問分野についてみると、理系が 41.9%と最も多く、次にその他（芸術・スポーツ等）、文系、文理融合と続いている（図 1-3）。

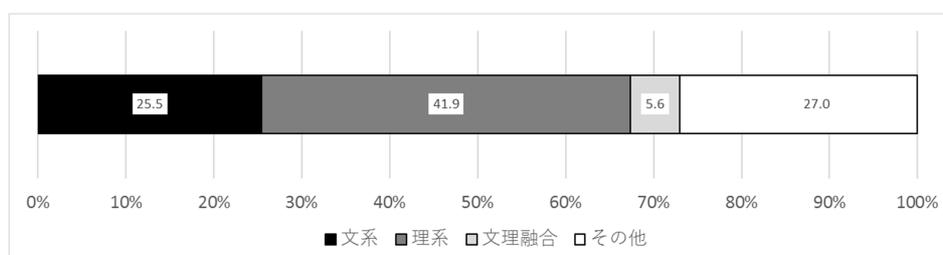


図 1-3. 回答者の学問分野 (n=1406)

現在の居住地をみると、滋賀県の大学に通学しているため滋賀県が 68.7%と最も多い(図 1-4)。次に滋賀県から通学がしやすい京都府と大阪府からそれぞれ約 10%の回答者が通学している。なお、その他の中には兵庫県(23名)、岐阜県(18名)、奈良県(11名)、愛知県(10名)などが含まれている。

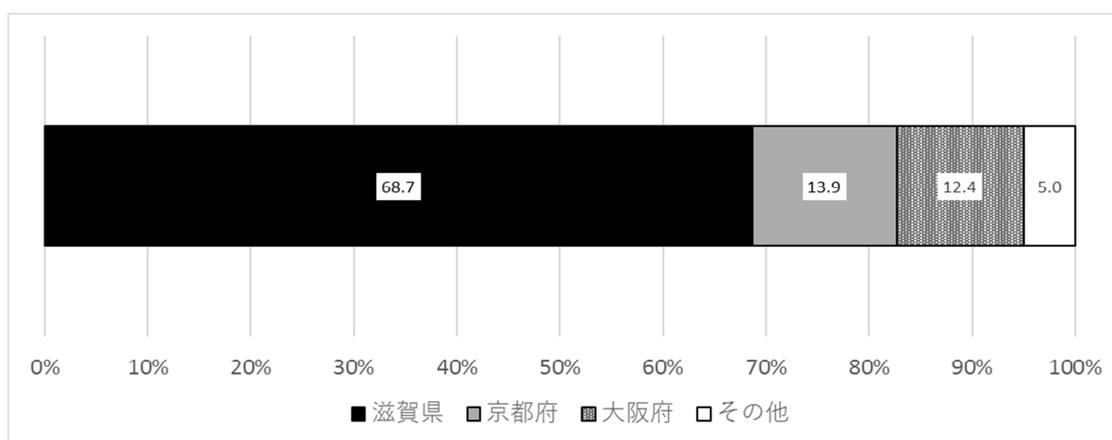


図 1-4. 現在の居住地 (n=1406)

実家の所在地をみると、最も多いのが滋賀県の 31.6%であり、大阪府 16.4%、京都府 16.1%と続いている(図 1-5)。それ以外の都道府県に実家がある回答者が約 35%であるが、京都と大阪について、滋賀県にアクセスしやすい愛知県(64名)・岐阜県(49名)が多く、この2県で8%である。この調査でみる限り、関東以北や海外に実家があつて滋賀県の大学に入学する回答者は少ないようだ。

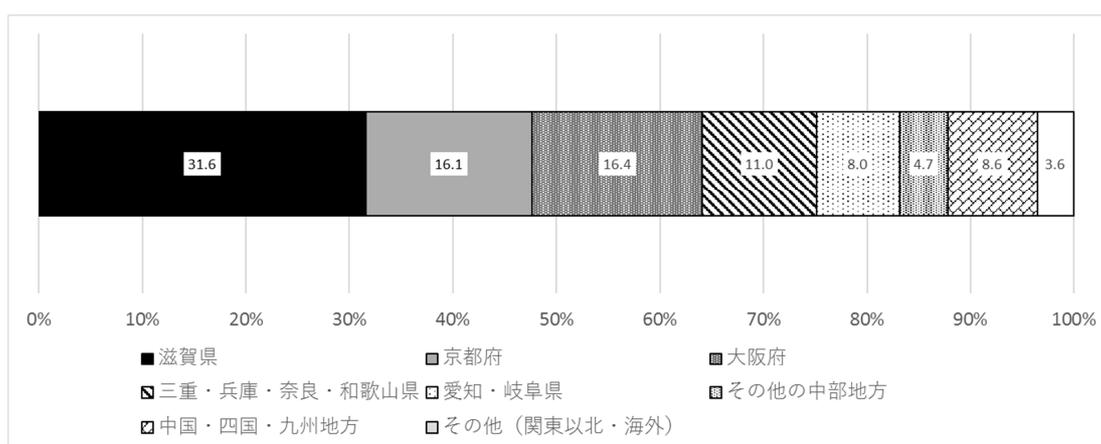


図 1-5. 実家の所在地 (n=1406)

1-3. クロス集計に基づく回答者の特徴

前節までの単純集計による特徴に加えて、ここからはクロス集計表から回答者の特徴をみていく。

まず大学別に学年をみると、すべての大学で学年が偏りなくとれているわけではなく、学校ごとにばらつきがある（表 1-2）。例えば龍谷大学では1年生と3年生、立命館大学では3年生以上の回答者が多い。そのほかの大学では比較的1年生、2年生が多く回答している。学校別の結果では、この学年の偏りが反映される可能性があるため、注意が必要である。

表 1-2. 在籍する大学・短大別にみた回答者の学年

		問2×問4 学校種別学年					合計	
		学部1年生	学部2年生	学部3年生	学部4年生以上	大学院生		短大生
問1 在籍する大学・短大	滋賀大学	45	47	15	2	17	0	126
		35.7%	37.3%	11.9%	1.6%	13.5%	0.0%	100.0%
	滋賀医科大学	5	2	4	5	5	0	21
		23.8%	9.5%	19.0%	23.8%	23.8%	0.0%	100.0%
	滋賀県立大学	51	51	21	41	29	0	193
		26.4%	26.4%	10.9%	21.2%	15.0%	0.0%	100.0%
	龍谷大学	110	42	76	3	1	0	232
		47.4%	18.1%	32.8%	1.3%	.4%	0.0%	100.0%
	立命館大学	30	37	134	85	44	0	330
		9.1%	11.2%	40.6%	25.8%	13.3%	0.0%	100.0%
	成安造形大学	37	26	15	17	0	0	95
		38.9%	27.4%	15.8%	17.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	聖泉大学	53	17	10	1	3	0	84
		63.1%	20.2%	11.9%	1.2%	3.6%	0.0%	100.0%
	長浜バイオ大学	16	10	3	2	1	0	32
		50.0%	31.3%	9.4%	6.3%	3.1%	0.0%	100.0%
	びわこ成蹊スポーツ大学	47	58	40	32	2	0	179
		26.3%	32.4%	22.3%	17.9%	1.1%	0.0%	100.0%
	びわこ学院大学・短期大学部	7	7	3	1	0	2	20
		35.0%	35.0%	15.0%	5.0%	0.0%	10.0%	100.0%
滋賀短期大学	0	0	0	0	0	66	66	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	
滋賀文教短期大学	0	0	0	0	0	28	28	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	
合計		401	297	321	189	102	1406	
		28.5%	21.1%	22.8%	13.4%	7.3%	100.0%	

在籍する大学・短大別に回答者の学問分野をみると、大学によって回答者の学問分野の分布が異なる（表 1-3）。特に滋賀大学、滋賀短期大学、滋賀文教短期大学では文系が比較的多い。滋賀医科大学、滋賀県立大学、龍谷大学、立命館大学、長浜バイオ大学では理系が多い。成安造形大学やびわこ成蹊スポーツ大学ではその他（スポーツや芸術）が多くを占めている。これらの分布は明らかに大学・短大のカリキュラムの特徴を反映していると考えられる。なお、文理融合は比較的新しい分野であることから、どの大学でも少ない。

表 1-3. 在籍する大学・短大別にみた回答者の学問分野

		問3 文系・理系				合計
		文系	理系	文理融合	その他	
問1 在籍する大学・短大	滋賀大学	99	7	14	6	126
		78.6%	5.6%	11.1%	4.8%	100.0%
	滋賀医科大学	0	18	3	0	21
		0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	100.0%
	滋賀県立大学	31	132	23	7	193
		16.1%	68.4%	11.9%	3.6%	100.0%
	龍谷大学	84	133	15	0	232
		36.2%	57.3%	6.5%	0.0%	100.0%
	立命館大学	49	217	13	51	330
		14.8%	65.8%	3.9%	15.5%	100.0%
	成安造形大学	4	0	0	91	95
		4.2%	0.0%	0.0%	95.8%	100.0%
	聖泉大学	23	38	9	14	84
		27.4%	45.2%	10.7%	16.7%	100.0%
	長浜バイオ大学	0	32	0	0	32
		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	びわこ成蹊スポーツ大学	2	0	0	177	179
		1.1%	0.0%	0.0%	98.9%	100.0%
	びわこ学院大学・短期大学部	10	0	0	10	20
		50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
滋賀短期大学	37	12	2	15	66	
	56.1%	18.2%	3.0%	22.7%	100.0%	
滋賀文教短期大学	19	0	0	9	28	
	67.9%	0.0%	0.0%	32.1%	100.0%	
合計		358	589	79	380	1406
		25.5%	41.9%	5.6%	27.0%	100.0%

在籍する大学・短大別に回答者の性別をみると、滋賀医科大学、成安造形大学、滋賀短期大学、滋賀文教短期大学で女性の回答者が多く、立命館大学、長浜バイオ大学、びわこ成蹊スポーツ大学で男性の回答者が多いようである（表 1-4）。

表 1-4. 在籍する大学・短大別にみた回答者の性別

		問 5 性別				合計
		男	女	答えたくない	無回答	
問 1 在籍する大学・短大	滋賀大学	54	67	1	4	126
		42.9%	53.2%	.8%	3.2%	100.0%
	滋賀医科大学	6	11	1	3	21
		28.6%	52.4%	4.8%	14.3%	100.0%
	滋賀県立大学	100	86	3	4	193
		51.8%	44.6%	1.6%	2.1%	100.0%
	龍谷大学	128	98	3	3	232
		55.2%	42.2%	1.3%	1.3%	100.0%
	立命館大学	203	120	3	4	330
		61.5%	36.4%	.9%	1.2%	100.0%
	成安造形大学	15	76	1	3	95
		15.8%	80.0%	1.1%	3.2%	100.0%
	聖泉大学	28	55	1	0	84
		33.3%	65.5%	1.2%	0.0%	100.0%
	長浜バイオ大学	23	8	1	0	32
		71.9%	25.0%	3.1%	0.0%	100.0%
	びわこ成蹊スポーツ大学	129	40	3	7	179
		72.1%	22.3%	1.7%	3.9%	100.0%
びわこ学院大学・短期大学部	9	11	0	0	20	
	45.0%	55.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
滋賀短期大学	4	59	3	0	66	
	6.1%	89.4%	4.5%	0.0%	100.0%	
滋賀文教短期大学	7	18	3	0	28	
	25.0%	64.3%	10.7%	0.0%	100.0%	
合計		706	649	23	28	1406
		50.2%	46.2%	1.6%	2.0%	100.0%

性別に学問分野をみると、男性では理系の回答者が男性の 48%を占めているが、女性では理系が少ない分、文系の回答者が多い（表 1-5）。

表 1-5. 性別にみた回答者の学問分野

		問 3 文系・理系				合計
		文系	理系	文理融合	その他	
問 5 性別	男	143	339	32	192	706
		20.3%	48.0%	4.5%	27.2%	100.0%
	女	202	228	46	173	649
		31.1%	35.1%	7.1%	26.7%	100.0%
合計		345	567	78	365	1355
		25.5%	41.8%	5.8%	26.9%	100.0%

ここからは回答者の居住地や実家の所在地についてクロス集計からみていく。まず性別に回答者の居住地をみると、回答者の居住地には差がなく、居住地はほぼ同じ割合である（表 1-6）。次に在籍する大学別に回答者の居住地をみると、聖泉大学、びわこ学院大学・短期大学部や短大では滋賀県に住んでいる回答者が比較的多く、約 9 割が滋賀県に住んでいる（表 1-7）。その他の大学についてみると、約 7 割程度が滋賀県に住んでいるが、龍谷大学とびわこ成蹊スポーツ大学では滋賀県に住んでいる人が少なく、京都や大阪から通っている回答者が多い。

表 1-6. 性別にみた回答者の居住地

		問 6 居住地（簡略版）				合計
		滋賀県	京都府	大阪府	その他	
問 5 性別	男	472	99	96	39	706
		66.9%	14.0%	13.6%	5.5%	100.0%
	女	454	93	71	31	649
		70.0%	14.3%	10.9%	4.8%	100.0%
合計		926	192	167	70	1355
		68.3%	14.2%	12.3%	5.2%	100.0%

表 1-7. 在籍する大学別にみた回答者の居住地

		問 6 居住地（簡略版）				合計
		滋賀県	京都府	大阪府	その他	
問 1 在籍する大学・短大	滋賀大学	100	13	7	6	126
		79.4%	10.3%	5.6%	4.8%	100.0%
	滋賀医科大学	17	2	2	0	21
		81.0%	9.5%	9.5%	0.0%	100.0%
	滋賀県立大学	140	28	12	13	193
		72.5%	14.5%	6.2%	6.7%	100.0%
	龍谷大学	111	48	63	10	232
		47.8%	20.7%	27.2%	4.3%	100.0%
	立命館大学	225	44	45	16	330
		68.2%	13.3%	13.6%	4.8%	100.0%
	成安造形大学	63	17	14	1	95
		66.3%	17.9%	14.7%	1.1%	100.0%
	聖泉大学	79	3	0	2	84
		94.0%	3.6%	0.0%	2.4%	100.0%
	長浜バイオ大学	21	2	3	6	32
		65.6%	6.3%	9.4%	18.8%	100.0%
	びわこ成蹊スポーツ大学	106	33	28	12	179
		59.2%	18.4%	15.6%	6.7%	100.0%
びわこ学院大学・短期大学部	19	1	0	0	20	
	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
滋賀短期大学	61	5	0	0	66	
	92.4%	7.6%	0.0%	0.0%	100.0%	
滋賀文教短期大学	24	0	0	4	28	
	85.7%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%	
合計		966	196	174	70	1406
		68.7%	13.9%	12.4%	5.0%	100.0%

次に、性別に回答者の実家の所在地をみると、滋賀県では10%ほど差があり、男性に比べて女性の方が滋賀県に実家がある回答者が多い。それ以外の実家の所在地では、男女で大きな差はないようだ（表1-8）。

表1-8. 性別にみた実家の所在地

		問7 実家の所在地（簡略版）								合計
		滋賀県	京都府	大阪府	三重・兵庫・奈良・和歌山県	愛知・岐阜県	その他の中部地方	中国・四国・九州地方	その他（関東以北・海外）	
問5 性別	男	187	115	122	92	62	30	73	25	706
		26.5%	16.3%	17.3%	13.0%	8.8%	4.2%	10.3%	3.5%	100.0%
	女	239	107	100	55	46	33	46	23	649
		36.8%	16.5%	15.4%	8.5%	7.1%	5.1%	7.1%	3.5%	100.0%
合計		426	222	222	147	108	63	119	48	1355
		31.4%	16.4%	16.4%	10.8%	8.0%	4.6%	8.8%	3.5%	100.0%

在籍する大学別に実家の所在地別をみると、大学によって分布が異なる（表1-9）。まず聖泉大学、びわこ学院大学・短期大学部や短大は実家も滋賀にある回答者が多く7割以上を占めている。滋賀県以外の近畿地方に実家がある回答者が多いのは、龍谷大学とびわこ成蹊スポーツ大学である。中部地方に実家がある回答者が多いのは長浜バイオ大学であり、中国・四国・九州地方から来ている回答者が多いのは立命館大学、成安造形大学である。

表1-9. 在籍する大学別にみた実家の所在地

		問7 実家の所在地（簡略版）								合計
		滋賀県	京都府	大阪府	三重・兵庫・奈良・和歌山県	愛知・岐阜県	その他の中部地方	中国・四国・九州地方	その他（関東以北・海外）	
問1 在籍する大学・短大	滋賀大学	42	18	8	16	26	7	5	4	126
		33.3%	14.3%	6.3%	12.7%	20.6%	5.6%	4.0%	3.2%	100.0%
	滋賀医科大学	10	2	6	1	0	1	1	0	21
		47.6%	9.5%	28.6%	4.8%	0.0%	4.8%	4.8%	0.0%	100.0%
	滋賀県立大学	73	40	25	15	27	7	3	3	193
		37.8%	20.7%	13.0%	7.8%	14.0%	3.6%	1.6%	1.6%	100.0%
	龍谷大学	56	50	67	28	5	7	17	2	232
		24.1%	21.6%	28.9%	12.1%	2.2%	3.0%	7.3%	.9%	100.0%
	立命館大学	41	44	62	42	36	22	55	28	330
		12.4%	13.3%	18.8%	12.7%	10.9%	6.7%	16.7%	8.5%	100.0%
	成安造形大学	22	21	21	7	0	6	16	2	95
		23.2%	22.1%	22.1%	7.4%	0.0%	6.3%	16.8%	2.1%	100.0%
	聖泉大学	62	4	0	2	3	2	9	2	84
		73.8%	4.8%	0.0%	2.4%	3.6%	2.4%	10.7%	2.4%	100.0%
	長浜バイオ大学	5	3	9	3	6	3	0	3	32
	15.6%	9.4%	28.1%	9.4%	18.8%	9.4%	0.0%	9.4%	100.0%	
びわこ成蹊スポーツ大学	35	39	33	40	3	9	14	6	179	
	19.6%	21.8%	18.4%	22.3%	1.7%	5.0%	7.8%	3.4%	100.0%	
びわこ学院大学・短期大学部	19	0	0	1	0	0	0	0	20	
	95.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
滋賀短期大学	59	5	0	0	0	1	1	0	66	
	89.4%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	0.0%	100.0%	
滋賀文教短期大学	20	0	0	0	7	1	0	0	28	
	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	3.6%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計		444	226	231	155	113	66	121	50	1406
		31.6%	16.1%	16.4%	11.0%	8.0%	4.7%	8.6%	3.6%	100.0%

最後に実家の所在地別に回答者の居住地をみると、実家が滋賀にある人、中部地方より東に住んでいる回答者は、ほぼ全員が滋賀に住んでいる（表 1-10）。一方、京都や大阪に実家がある場合は、それぞれの都道府県に現在の居住地がある回答者が 7 割から 8 割程度いる。よって、滋賀県、あるいは滋賀県から遠くに実家がある回答者は大学の所在地である滋賀県に住んでいるが、京都や大阪など通学ができる都市に住んでいる回答者は、実家から通っていることが推察される。

表 1-10. 実家の所在地別にみた回答者の居住地

		問 6 居住地 (簡略版)				合計	
		滋賀県	京都府	大阪府	その他		
問 7 実家の所在地 (簡略版)	滋賀県	437	3	1	3	444	
		98.4%	.7%	.2%	.7%	100.0%	
	京都府	45	180	1	0	226	
		19.9%	79.6%	.4%	0.0%	100.0%	
	大阪府	59	2	170	0	231	
		25.5%	.9%	73.6%	0.0%	100.0%	
	三重・兵庫・奈良・和歌山県	109	8	1	37	155	
		70.3%	5.2%	.6%	23.9%	100.0%	
	愛知・岐阜県	84	1	1	27	113	
		74.3%	.9%	.9%	23.9%	100.0%	
	その他の中部地方	63	1	0	2	66	
		95.5%	1.5%	0.0%	3.0%	100.0%	
	中国・四国・九州地方	121	0	0	0	121	
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	その他 (関東以北・海外)	48	1	0	1	50	
		96.0%	2.0%	0.0%	2.0%	100.0%	
	合計		966	196	174	70	1406
			68.7%	13.9%	12.4%	5.0%	100.0%

2. 就職に関する意識の分析

<質問文>

問8 入学する大学・短大を選択する時点で、大学・短大が滋賀県内または関西圏にあることにこだわりましたか。

問9 問8で1. 2. と回答した方にお聞きします。あなたがそう思った理由のうち、当てはまるものを全て選んでください。

入学する時点での大学・短大の所在地のこだわりについて、滋賀県にこだわった回答者は約15%と少ない(図2-1)。一方で関西圏まで含めると、所在地にこだわった回答者は約60%と過半数を超える。

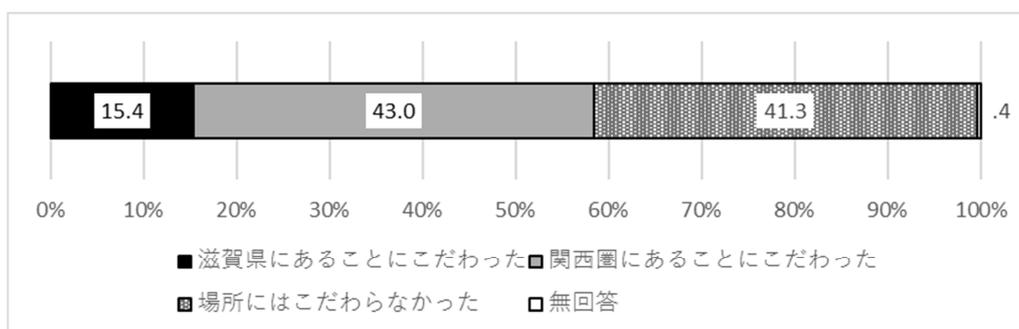


図 2-1. 問 8 の回答分布 (n=1406)

大学別にみると、聖泉大学、滋賀短期大学、滋賀文教短期大学では滋賀県にあることにこだわった回答者が多い（図 2-2）。また、関西圏であることにこだわった回答者が多いのは滋賀医科大学である。一方、こだわりがなかった回答者は立命館大学、長浜バイオ大学に多い。

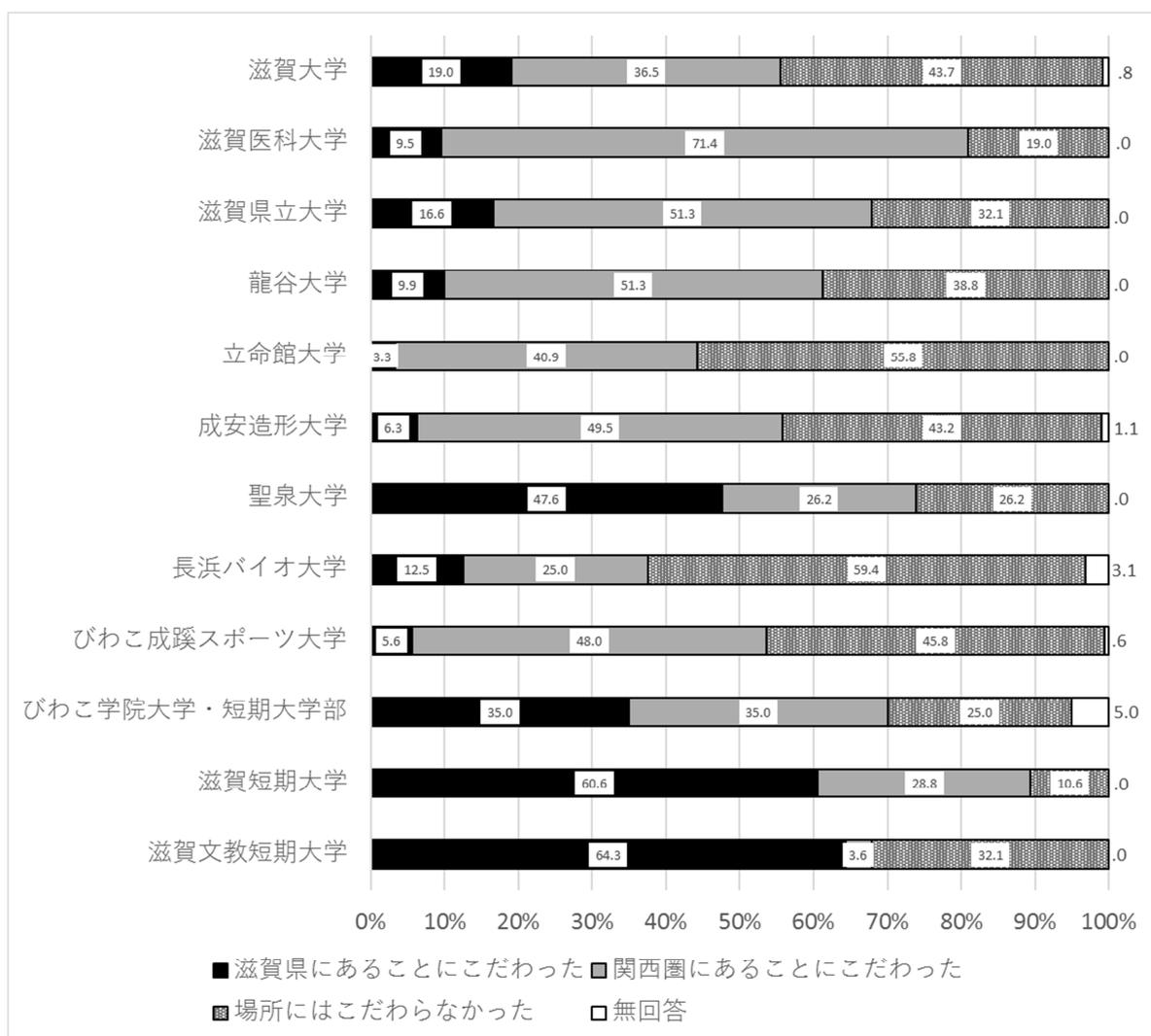


図 2-2. 問 8 の回答分布（大学別）

実家の所在地別にみた場合、滋賀県であることにこだわった回答者の多くは、滋賀県に実家がある（図 2-3）。関西圏であることにこだわった回答者の多くは京都府や大阪府に実家があり、次いでほかの近畿地方の県が続いている。その他の地方では、こだわりがなかった回答者が多い。

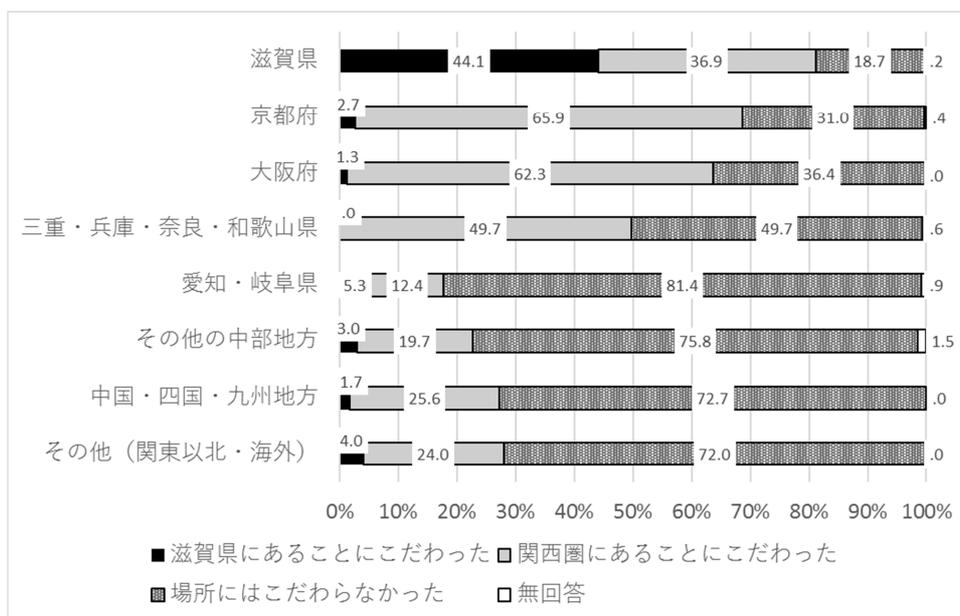


図 2-3. 問 8 の回答分布（実家の所在地別）

滋賀県と関西圏にこだわりのあった回答者に限定してその理由を尋ねると、実家から離れたくない、経済的な負担軽減、そして通学の利便性が 4 割を超えており、実家の影響が強いこと、かつ現実的な選択をしていることが読み取れる（図 2-4）。一方で滋賀県や関西圏への愛着、また将来の就職や居住で大学の所在地にこだわったわけではないことがわかる。

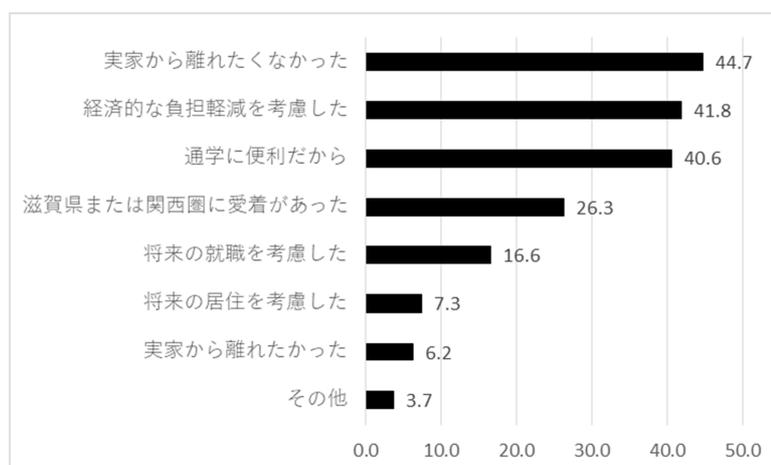


図 2-4. 問 9 の回答分布 (n=821)

<質問文>

問10 大学・短大卒業後、滋賀県内の企業・事業所に就職することについて、あなたの思いに近いものを一つ選んでください。（就職内定済の方も思いで選んでください。）

問11 問10で1. 2. と答えた方に伺います。あなたがそう思う理由のうち、当てはまるものを全て選んで下さい。

問12 問10で3. と答えた方に伺います。あなたがそう思う理由のうち、当てはまるものを全て選んで下さい。

就職希望についてきいたところ、約4割の回答者が就職する場所にこだわっていない一方、約6割の回答者が何らかのこだわりがあると答えている（図2-5）。その中でも県外就職の希望者が約25%と多い。しかし、県内就職希望と条件付き県内就職希望を合わせると約35%であるため、決して少なくない大学生が県内就職についても検討しているといえる。

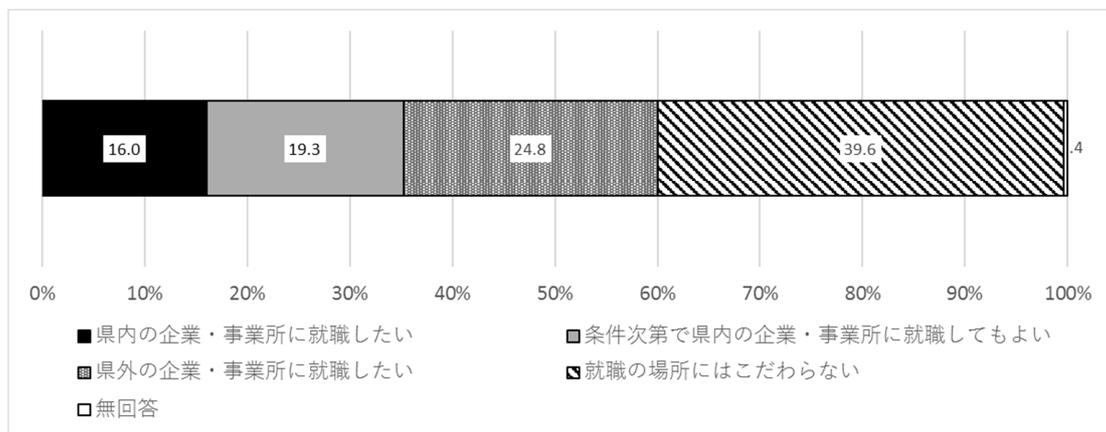


図2-5. 問10の回答分布 (n=1406)

県内就職希望について細かくみていく。まず大学別の就職希望についてみると、聖泉大学、びわこ学院大学・短期大学部、短期大学については、県内就職希望が多いことがわかる（図2-6）。条件次第で就職してもよいと考えている回答者まで含めると、滋賀医科大学、滋賀県立大学の回答者の約半数の回答者が滋賀県に就職してもよいと考えている。一方積極的に県外の就職を考えているのは、立命館大学やびわこ成蹊スポーツ大学の回答者が多い。どこでもよいと考えている回答者は龍谷大学、立命館大学、成安造形大学、長浜バイオ大学などに多くいるようである。

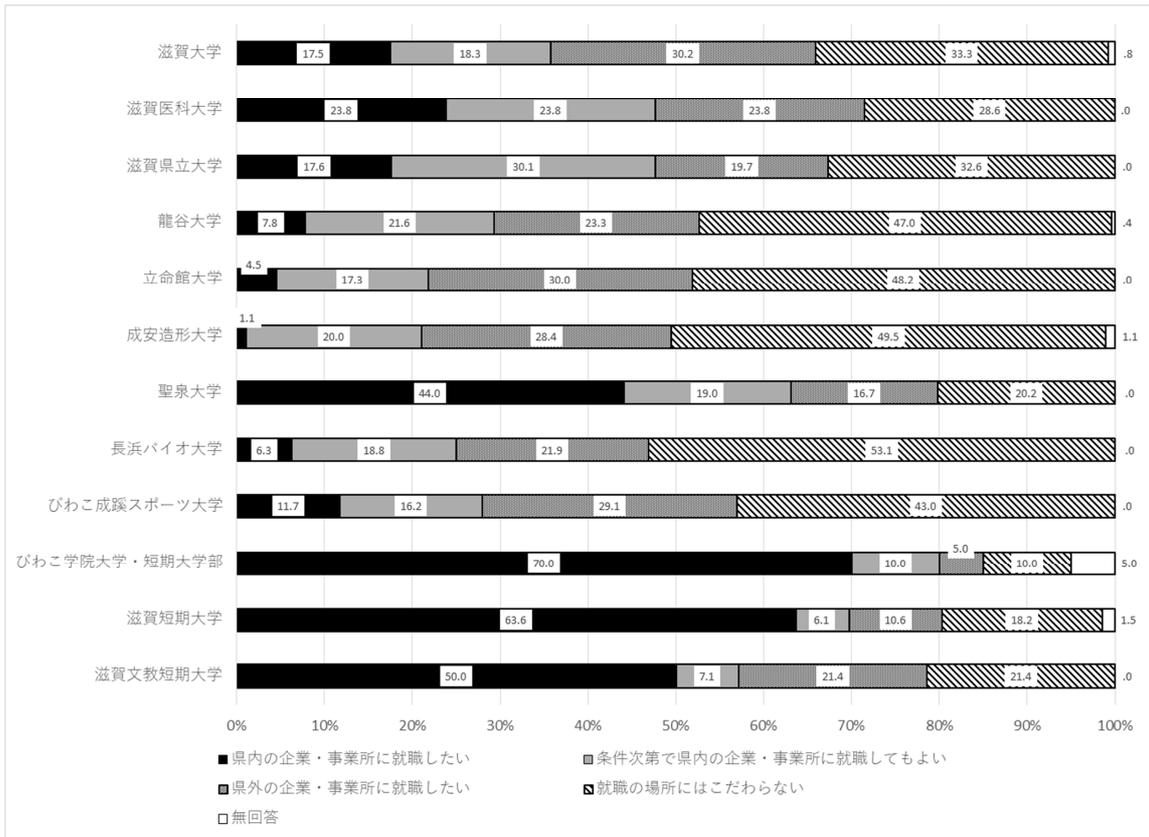


図 2-6. 問 10 の回答分布 (大学・短大別)

続いて学年別にみると、短大生が 60.4%と最も県内就職希望が多い (図 2-7)。一方四年制大学では、1 回生と院生では約 38%と比較的県内就職希望が多いものの、3 回生で約 25%、4 回生では約 30%と県内就職希望が少ない傾向がある。

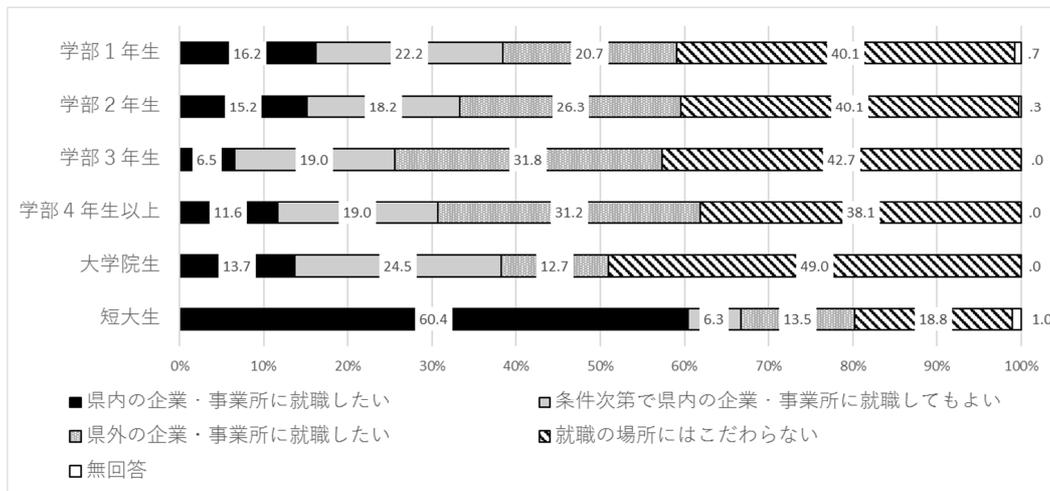


図 2-7. 問 10 の回答分布 (学年別)

実家の所在地別にみると、滋賀県に実家がある回答者は積極的に滋賀県に就職したいと考えているようだ（図 2-8）。条件次第での就職を考えるという回答者は京都府に実家がある回答者までで、大阪府からは就職を考える人は少なくなる。積極的に県外就職を考えている回答者は愛知や岐阜県を含む中部地方に実家がある人が多い傾向がある。

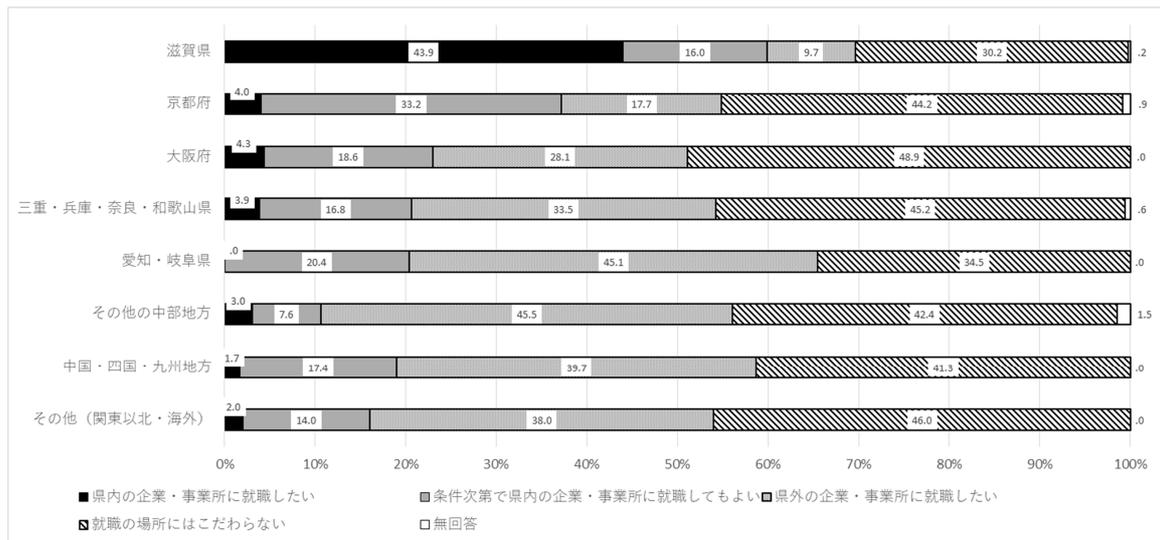


図 2-8. 問 10 の回答分布（実家の所在地別）

県内就職希望、条件付き県内就職希望に絞ってその理由について尋ねたところ、通勤のしやすさ（56.0%）、そして実家からの近さ（44.6%）をあげている人が多い（図 2-9）。一方で滋賀県に対する愛着や友人関係によって県内を希望する回答者は比較的多くはないようだ。また、働きたい業種や職種があるからという理由で県内就職を希望する回答者は約 25%であることから、具体的な就職先を考えた上で県内就職を考える回答者もそれほど多くないことがわかる。

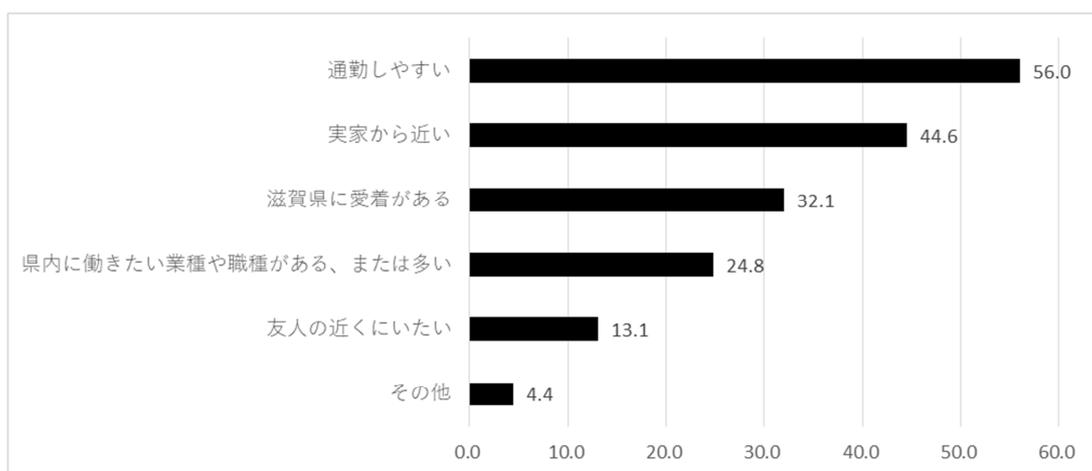


図 2-9. 問 1 1 の回答分布 (n=496)

次に県外就職の希望理由についてみると、実家の近くにいたいと答えた回答者が約半数であり、県内就職と比較しても、実家の近くで就職することを考えている回答者は多くいることがわかる (図 2-10)。また、大都市や海外で積極的に働きたいという回答者も 36.2%と、少なくない県外希望者が大都市における就職を希望している。さらに、滋賀県から離れたいという県外就職希望者は 19.0%であり、積極的な理由に比べると、消極的な県外就職希望者は少ないといえる²。

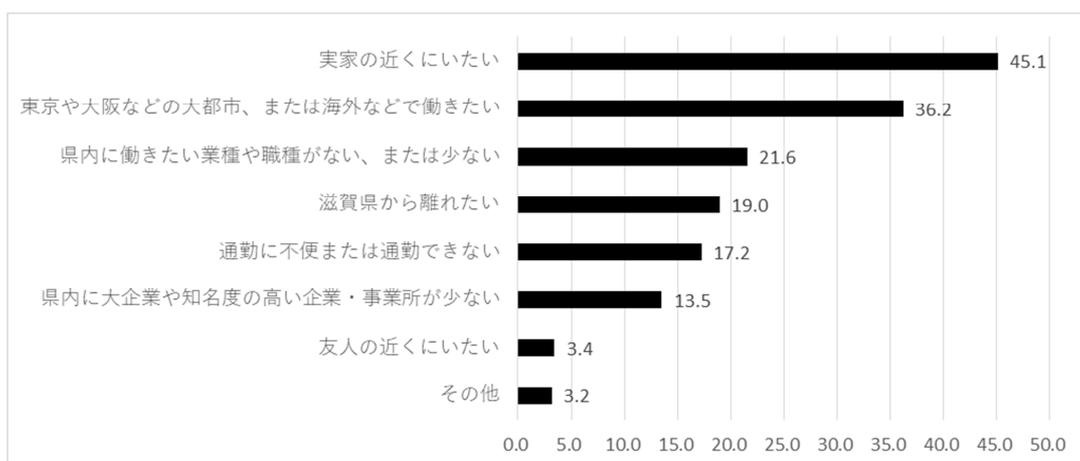


図 2-10. 問 1 2 の回答分布 (n=348)

² なお「滋賀県から離れたい」という理由を実家の所在地別にみたところ、県外就職を希望かつ滋賀県に実家がある人の約半数がこの理由を選択していた (グラフは省略)。他の出身地の人では 10%から 18.8%の間であり、滋賀県の人と外から来ている人で大きな差があった。県外の人で滋賀県から離れたいという理由の人は少ないようである。

<質問文>

問13 現時点で、働きたいと思う業種を全て選んでください。

問14 現時点で、働きたいと思う就職先を一つ選んでください。

働きたい職業についてみると、1位が製造業、2位が教育、3位が医療・介護であった(図2-11)。またコンサルティングや法律・会計事務所、運輸・物流、人材サービスといった職業については、選択する回答者が少ない。

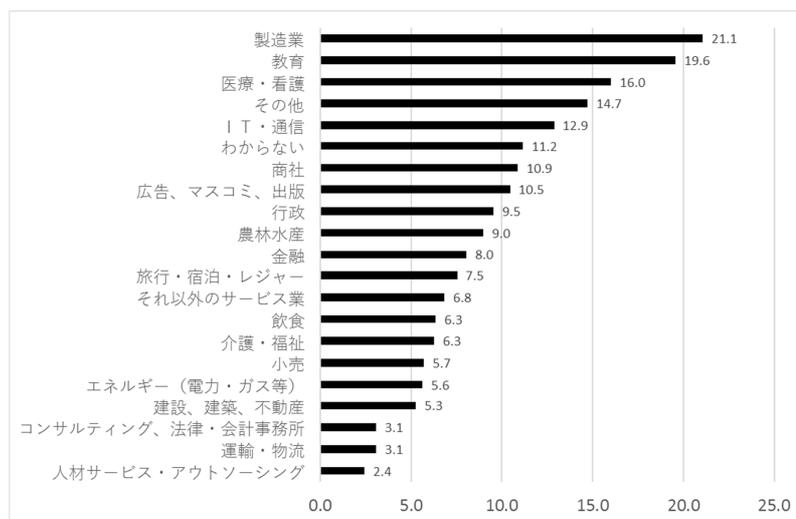


図2-11. 問13の回答分布 (n=1406)

就職先の希望についてみると、約25%の人々がまだ決められていない(図2-12)。「わからない」以外の回答で最も多いのが大企業志望の25.8%であるが、その他の中小企業や官公庁も含めて、概して様々な就職先に関心があるといえよう。ただし、ベンチャー企業といった就業先はまだ就職先として、積極的に働きたいと思う回答者はそれほど多くないようだ。

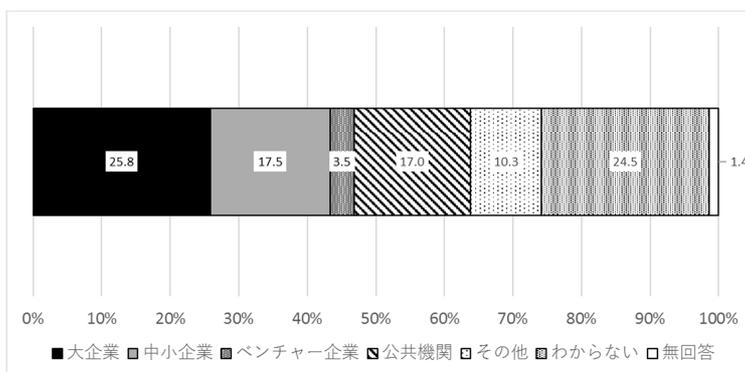


図2-12. 問14の回答分布 (n=1406)

男女別に就職先の希望をみると、男性は大企業志望が 33.7%と最も多く、女性はまだ決めていない人が 29.9%と最も多い。さらに女性は中小企業志望や公共機関への就職希望が若干多いようである（図 2-13）。

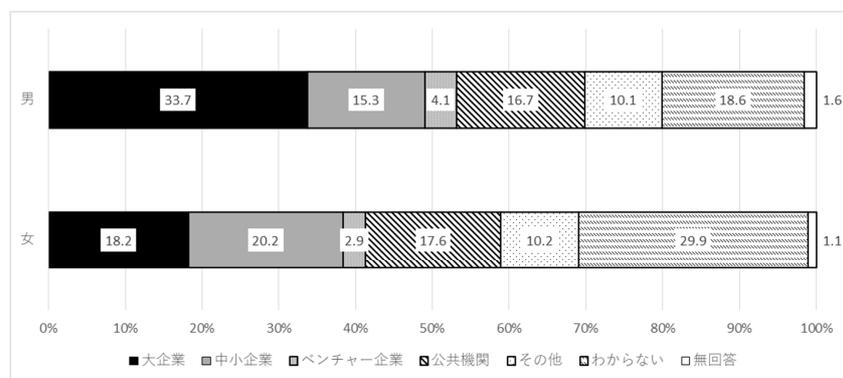


図 2-13. 問 1 4 の回答分布（性別）

在籍する大学・短大別に就職先の希望をみると、志望する企業の規模は大学によって差が大きい（図 2-14）。たとえば、大企業志望が最も多いのは立命館大学であり、46.4%となっている。中小企業を志望しているのは成安造形大学や長浜バイオ大学、滋賀短期大学の回答者であり、約 3 割の回答者が志望している。また長浜バイオ大学は他の大学に比べてベンチャー企業志望者が多い。公共機関をみると、滋賀大学が 40.5%と最も多く、次いでびわこ学院大学・短期大学部も 35.0%と志望者が多いことがわかる。

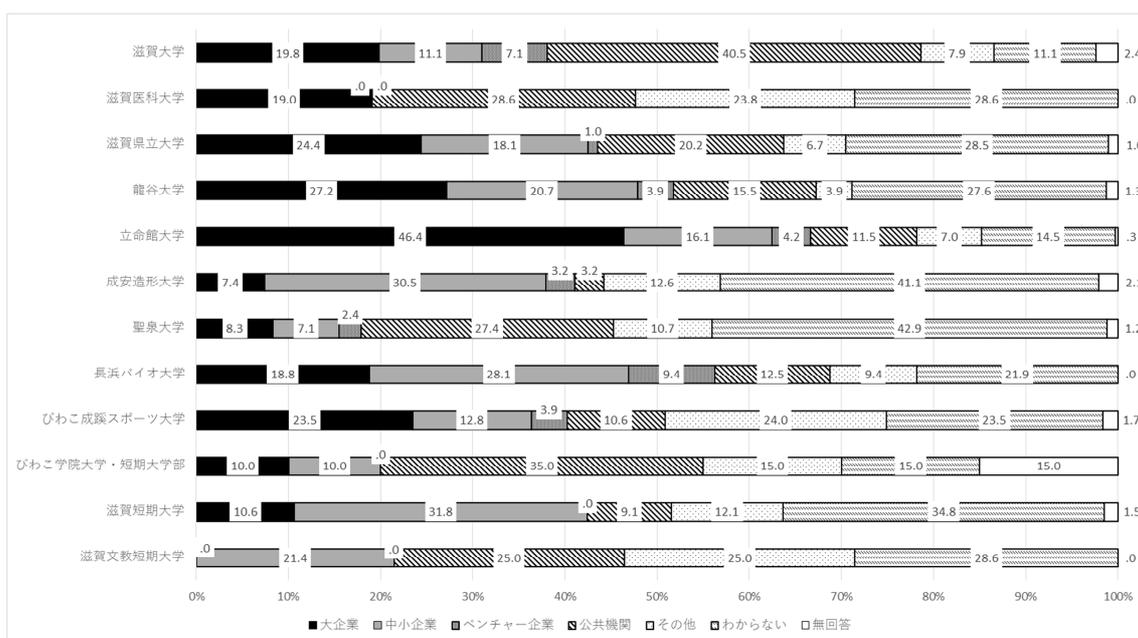


図 2-14. 問 1 4 の回答分布（大学・短大別）

<質問文>

問 1 5 現時点で、就職先の検討候補として県内の企業をいくつ知っていますか。

就職先の検討候補となる県内企業の数についてどの程度知っているかを尋ねたところ、約半数もの回答者が滋賀県内の企業を知らないという点が目立っている（図 2-15）。残りの半数は県内企業を知っているものの、1～2社が 24.4%、3～4社が 17.3%と多数を占め、5社以上知っている回答者はあまりいないことがわかる。

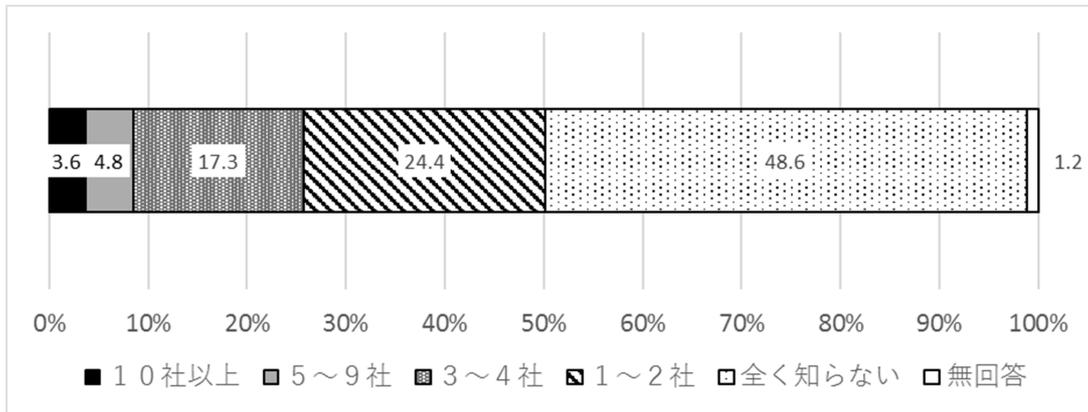


図 2-15. 問 1 5 の回答分布 (n=1406)

この点について学年別に詳しくみると、学年が上がっているごとに「全く知らない」と答える回答者は減少し、短大生は学部 4 年生と同程度である（図 2-16）。しかし、5社以上知っている回答者は、大学 4 年生でも 12.1%、大学院生でも 19.8%であることから、就職において多くの企業を調べていても、その数はそれほど多くないようである。

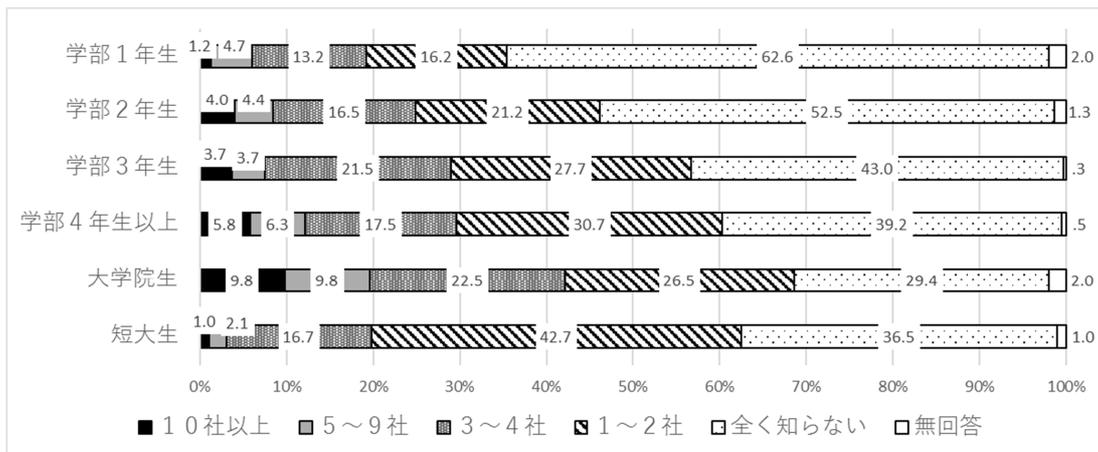


図 2-16. 問 1 5 の回答分布 (学年別)

<質問文>

問 1 6 滋賀県内への就職を促すための以下の取り組みについてどの程度効果があると思いますか。それぞれ選んでください。

1. 県内企業の魅力や経営・採用に関する豊富な情報提供
2. 県内の魅力的な生活に関する豊富な情報提供
3. 県内企業の合同就職説明会・面接会の開催
4. 県内企業におけるインターンシップの拡大
5. 県内企業における有給での長期（1か月以上）インターンシップの実施
6. 学生と経営者とのフランクな交流会の実施
7. 県内への就職を条件とした奨学金の返済に対する補助

滋賀県内への就職を促すための以下の取り組みについてみると、「大いに効果がある」と答えた回答者が最も多い項目は奨学金の返済に関する補助であり 35.8%の回答者が答えていた（図 2-17）。「ある程度効果がある」まで含めると、合同就職説明会やインターンシップも約 65%の回答者が効果があると考えているが、全体的に差が明瞭ではないことから、どの取り組みも同程度効果があるのかもしれない。

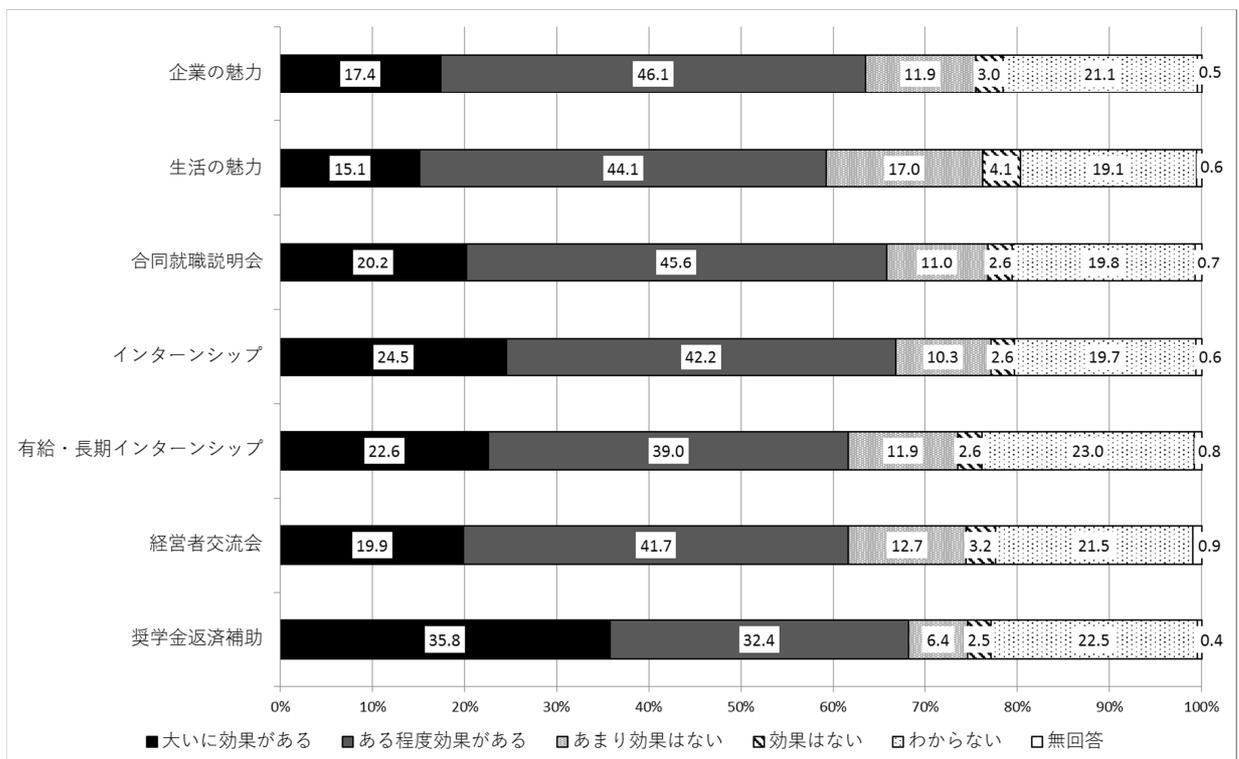


図 2-17. 問 1 6 の回答分布 (n=1406)

滋賀県内への就職を促すための取り組みのうち、奨学金に絞って実家の所在地別にみると、「大いに効果がある」と考える回答者は大阪府が多い（表 2-1）。また愛知県と岐阜県では少ない傾向にあるが、概して実家の所在地によって意見が変わる傾向は小さいようだ。

表 2-1. 問 1 6 - 7 の回答分布（実家の所在地別）

		問 1 6 - 7 県内就職への効果的な取り組み：奨学金返還補助						合計	
		大いに効果がある	ある程度効果がある	あまり効果はない	効果はない	わからない	無回答		
問 7 実家の所在地 (簡略版)	滋賀県	166	132	27	12	105	2	444	
		37.4%	29.7%	6.1%	2.7%	23.6%	.5%	100.0%	
	京都府	82	78	10	7	48	1	226	
		36.3%	34.5%	4.4%	3.1%	21.2%	.4%	100.0%	
	大阪府	94	71	18	8	40	0	231	
		40.7%	30.7%	7.8%	3.5%	17.3%	0.0%	100.0%	
	三重・兵庫・奈良・和歌山 県	51	55	11	0	36	2	155	
		32.9%	35.5%	7.1%	0.0%	23.2%	1.3%	100.0%	
	愛知・岐阜県	29	40	11	3	29	1	113	
		25.7%	35.4%	9.7%	2.7%	25.7%	.9%	100.0%	
	その他の中部地方	25	22	4	1	14	0	66	
		37.9%	33.3%	6.1%	1.5%	21.2%	0.0%	100.0%	
	中国・四国・九州地方	41	39	8	3	30	0	121	
		33.9%	32.2%	6.6%	2.5%	24.8%	0.0%	100.0%	
	その他（関東以北・海外）	15	19	1	1	14	0	50	
		30.0%	38.0%	2.0%	2.0%	28.0%	0.0%	100.0%	
	合計		503	456	90	35	316	6	1406
			35.8%	32.4%	6.4%	2.5%	22.5%	.4%	100.0%

<質問文>

問 1 7 合同就職説明会・面接会への参加を検討するにあたって重視することは何ですか。
当てはまるものを全て選んでください。

合同就職説明会・面接会への参加を検討するにあたって重視することについては、参加する企業の数が多く、63.7%の回答者が重視すると答えている（図 2-18）。次いでアクセス（44.8%）、大手企業の数（37.8%）が重要であるようだ。ノベルティの配布といった付随する要素を選んだ回答者は少なく（9.0%）、就職説明会の実質的な内容やアクセスの良さといった要素が重視されやすい傾向にある。

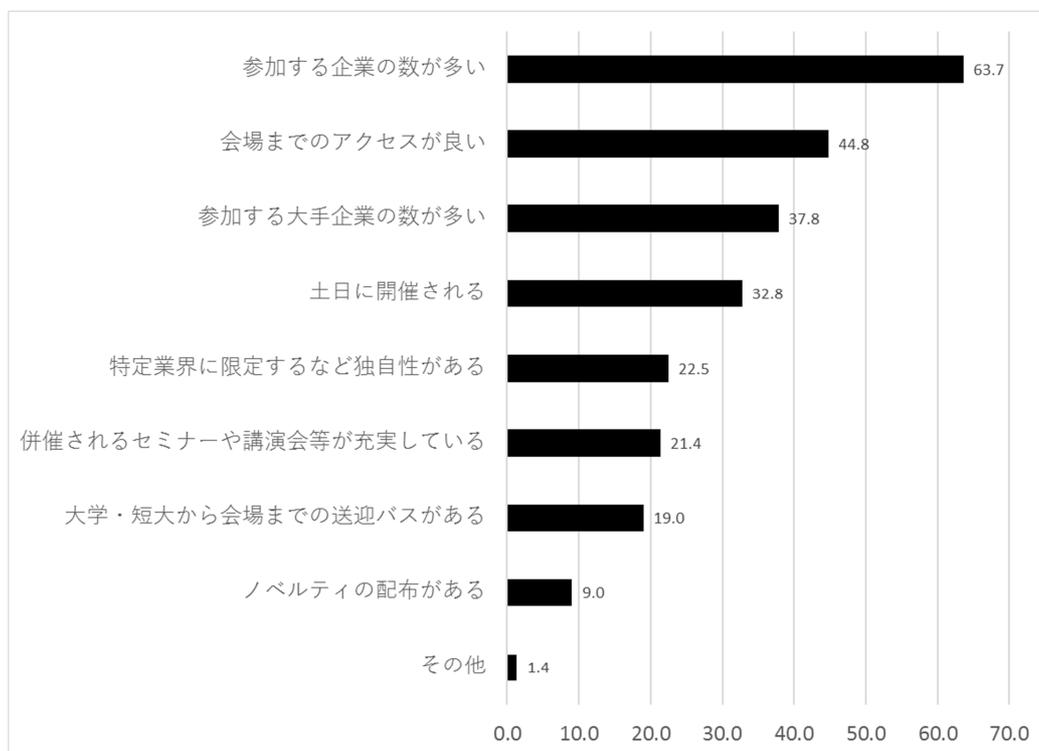


図 2-18. 問 1 7 の回答分布 (n=1406)

<質問文>

問18 JR草津駅西口にある、若年者対象の就職支援施設「おうみ若者未来サポートセンター」を知っていますか。また利用したことがありますか。

「近江若者未来サポートセンター」の認知状況について尋ねたところ、まったく知らない回答者が88.1%であることから、施設の認知度は高いとはいえない(図2-19)。残りの内訳をみると、利用したことがある回答者が2.1%と少なく、今後の利用の増加が望まれる。

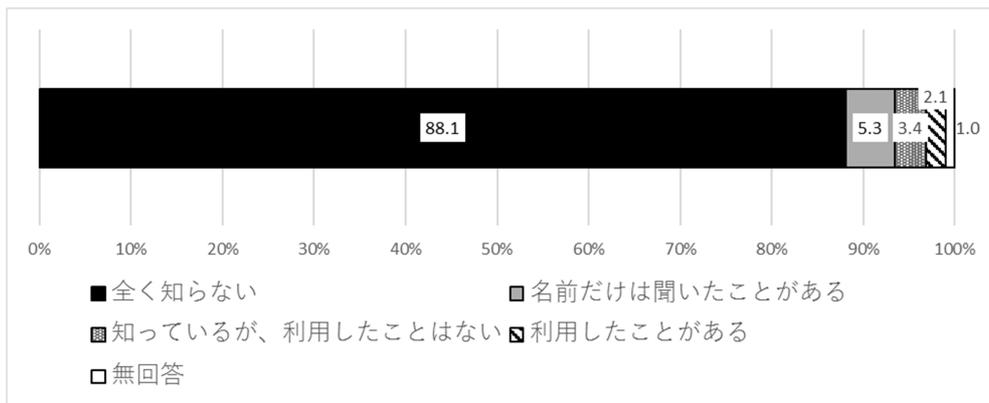


図2-19. 問18の回答分布 (n=1406)

大学・短大別にみるとほとんどの大学では「全く知らない」との回答が多いが、びわこ学院大学・短期大学部、滋賀短期大学、滋賀文教短期大学の学生は全く知らない学生が少ない(図2-20)。また特に滋賀短期大学の学生は19.7%が利用しており、他の大学に比べてよく利用している。

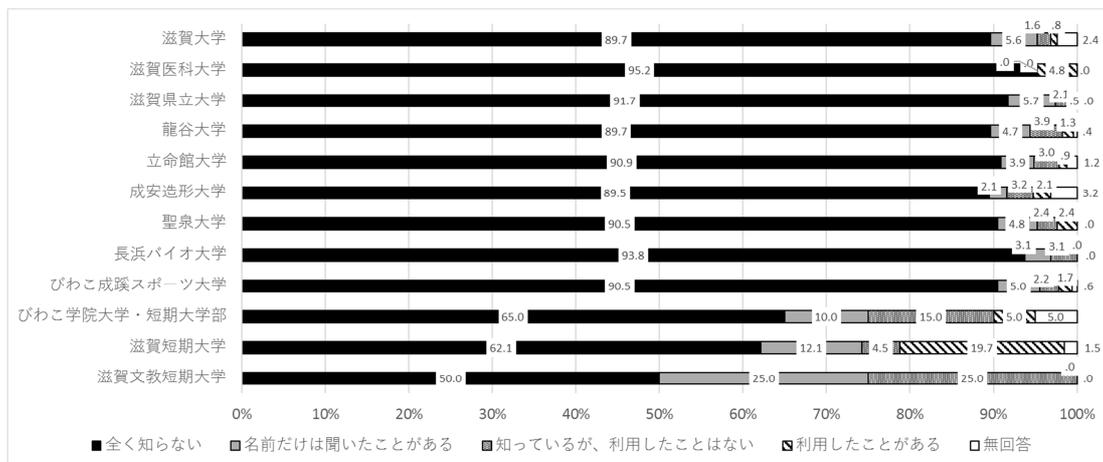


図2-20. 問18の回答分布 (大学・短大別)

3. 起業に関する意識の分析

<質問文>

問19 あなたは、起業（事業を創設する）に関心はありますか。

問20 問19で1. 2. と回答した方にお聞きします。起業に関心がある理由を以下から一つ選んでください。

問21 問19で3. 4. と回答した方にお聞きします。起業に関心のない理由を以下から一つ選んでください。

起業への関心について尋ねたところ、関心のある学生は25.9%（とても関心がある+ある程度関心がある）と多くはないことがわかる（図3-1）。男女別に分けてみると男性のほうが女性よりも起業に関心があり、男性では30.2%の学生が関心があるのに対して、女性では20.8%にとどまっている（図3-2）。学年別にみると、学部3年生以上の回答者は「全く関心がない」と答えやすいことから、就職を現実的に考えている、あるいは就職活動を経た学年では、起業への関心が低下するのかもしれない（図3-3）。

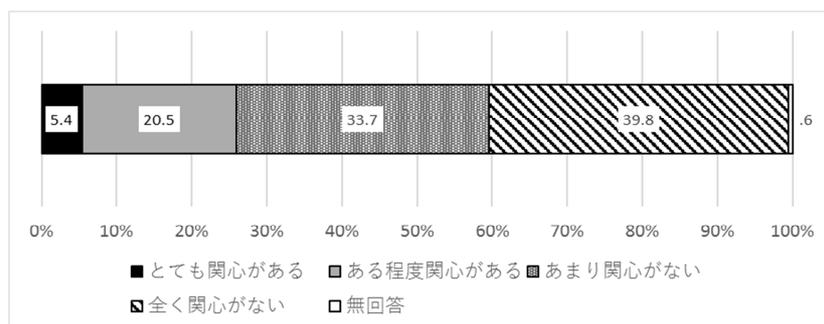


図3-1. 問19の回答分布 (n=1406)

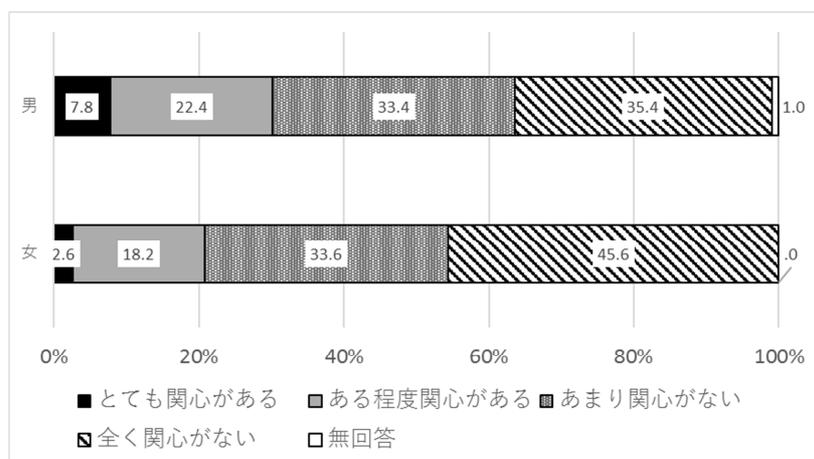


図3-2. 問19の回答分布 (性別)

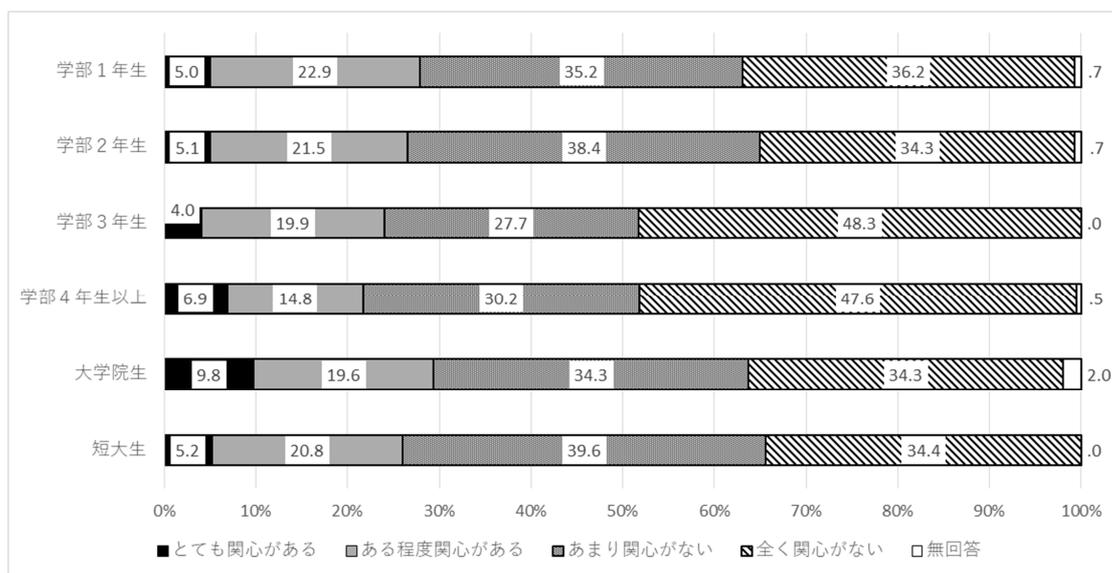


図 3-3. 問 19 の回答分布 (学年別)

起業に関心がある層についてその理由について尋ねたところ、自分の性格や能力を生かして起業という選択肢を考えている学生が半数以上と多い結果となった (図 3-4)。一方、関心がない層について理由について尋ねたところ、すべての回答に散らばっていることがわかる (図 3-5)。その中でも「リスクが大きくて不安」という意見が 34% と最も多いことから、起業をリスクだと考える人が多いことが伺える。

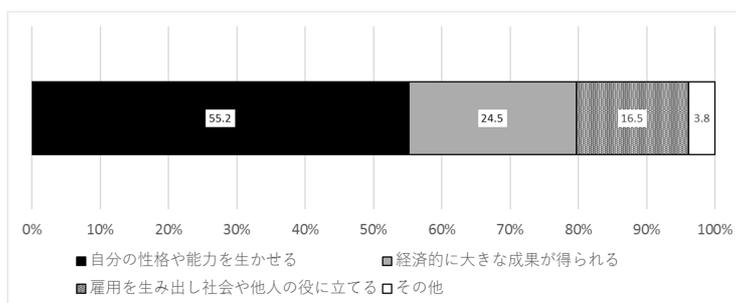


図 3-4. 問 20 の回答分布 (n=364)

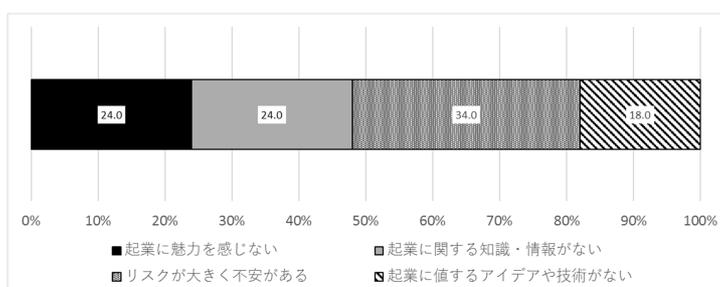


図 3-5. 問 21 の回答分布 (n=1034)

<質問文>

問 2 2 学生の起業意識を向上させるために重要と思われるものを全て選んでください。

学生の起業意識の向上にむけて何が必要か尋ねたところ、大学・短大における起業教育の実施が最も多く 50.9%の人々が重要だと考えている（図 3-6）。ほかの項目についても約 3 割の回答者が重要と答えており、「その他」の回答も少ないことから、起業意識を向上させるためには、ここで取り上げた項目については優劣なく、様々な取り組みが必要だといえるだろう。

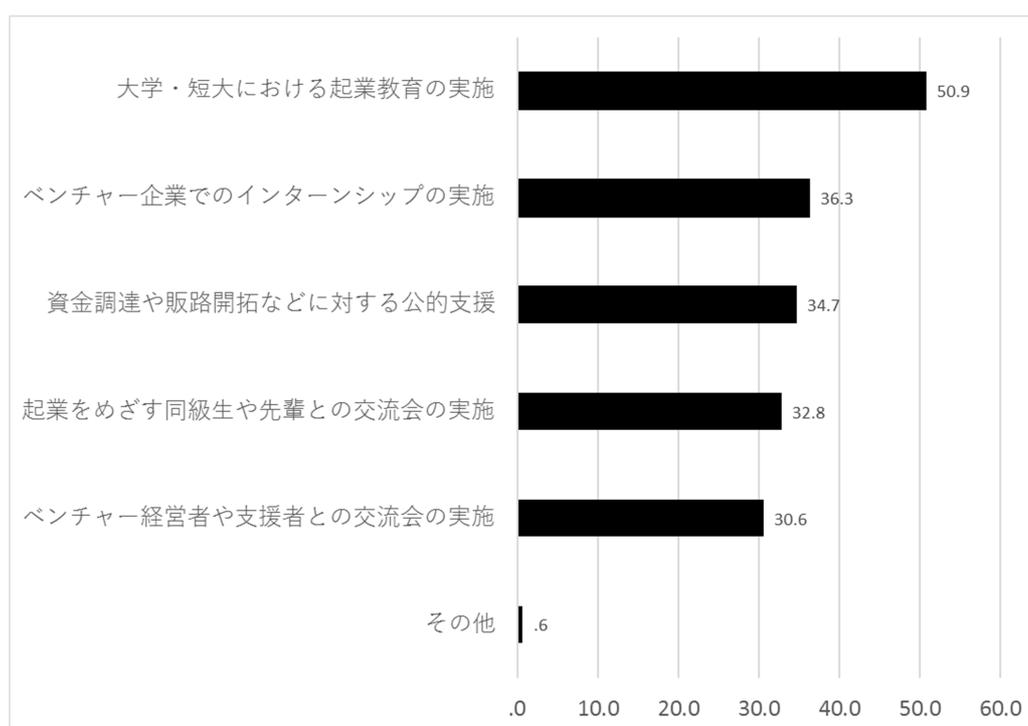


図 3-6. 問 2 2 の回答分布 (n=1406)

4. 定住に関する意識の分析

<質問文>

問23 卒業後、滋賀県内に住みたいと思いますか。

問24 問23で1. 2. と回答した方にお聞きします。住みたいと思う理由のうち、当てはまるものを以下から全て選んでください。

問25 問23で2. と回答した方にお聞きします。どの時期に住みたいと思いますか。一つ選んでください。

卒業後の滋賀県内への定住希望についてきくと、わからない・無回答の他、住みたいと考えている回答者は 27.6%（住みたい+いずれ住みたい）、住みたくないと考えている回答者は 29.8%と同程度であった（図 4-1）。また 42%もの回答者が「わからない」と答えていることから、まだ卒業後のイメージが湧いていない学生が多いことではないかと考えられる。

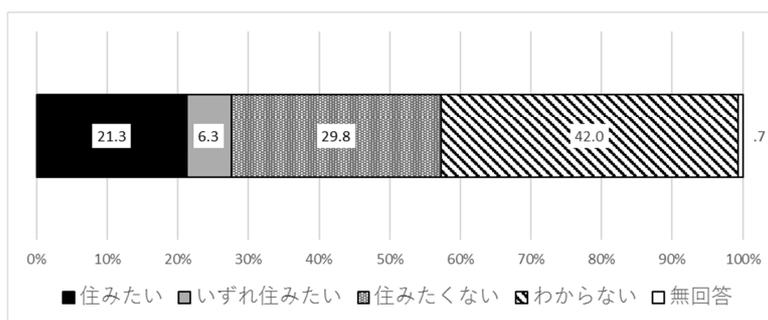


図 4-1. 問 2 3 の回答分布 (n=1406)

男女別にみると、男性よりも女性のほうが積極的に住みたいと考えている回答者が多く、住みたくないと考えている人の割合も女性の方が男性よりも若干少ないようだ（図 4-2）。

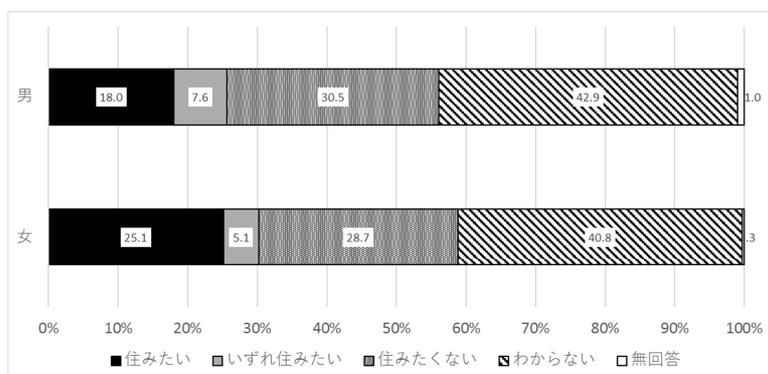


図 4-2. 問 2 3 の回答分布 (性別)

実家の所在地別にみると、滋賀県に実家がある回答者は「住みたい」と答える割合が 57.2% と多い (図 4-3)。一方でその他の地域に実家がある人は、「住みたい」と「いずれ住みたい」を合計しても 1 割前後であることから、積極的に滋賀県に住みたいと考えているわけではない。しかし、「わからない」と答えている回答者も 40.0% (その他 (関東以北・海外)) ~ 53.7% (中国・四国・九州地方) いることから、この人々がどのように将来の居住を決めていくのか明らかにする必要がある。大学・短大別にみると、滋賀県に住みたいのは聖泉大学と短期大学に多い (図 4-4)。

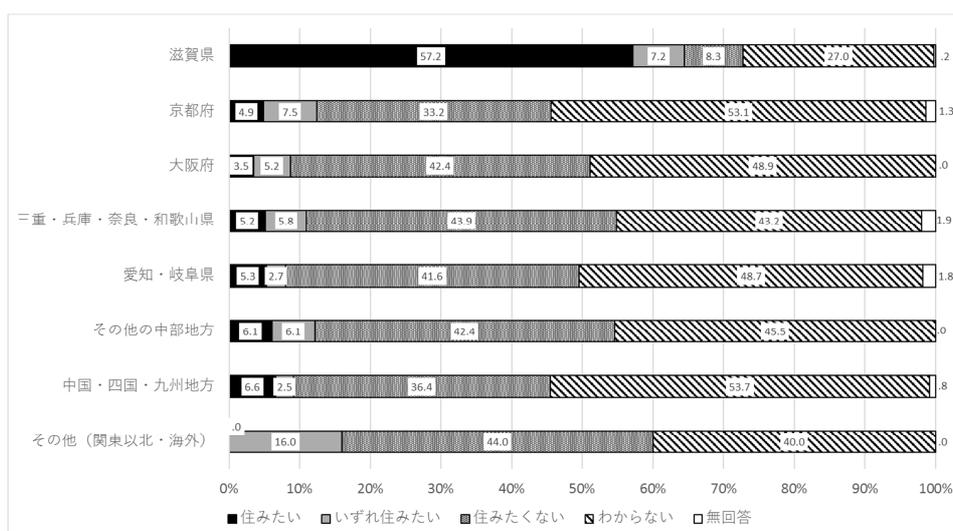


図 4-3. 問 2 3 の回答分布 (実家の所在地別)

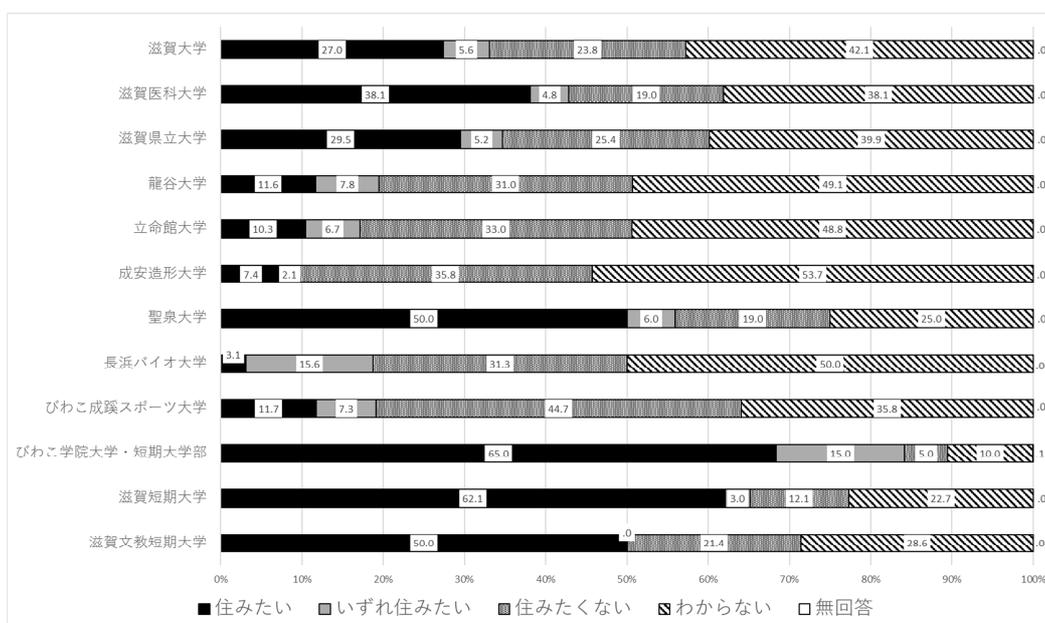


図 4-4. 問 2 3 の回答分布 (大学・短大別)

問23で「住みたい」と考えている回答者について理由を尋ねたところ、家族や友人とのつながり、大都市へのアクセスの良さ、自然環境を理由として上げている回答者が半数を超えている（図4-5）。一方医療・福祉や文化芸術・スポーツが充実していることを考えて住みたいと思っている回答者は5%程度と少ない。

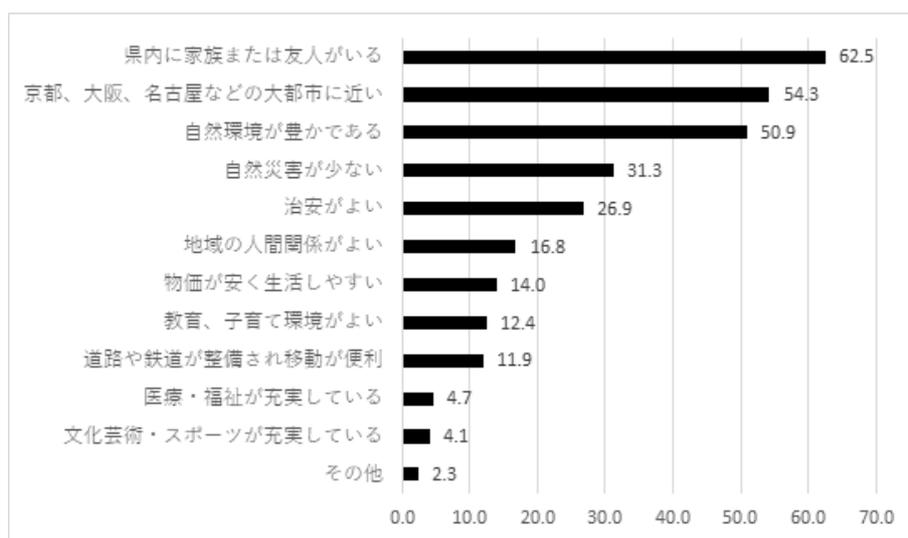


図4-5. 問24の回答分布 (n=387)

問23で「いずれ住みたい」と答えた人について、その時期を尋ねたところ、まだ時期について未定である人が約4割と最も多かった（図4-6）。ほかにも結婚、転職、子育て、定年退職後などのライフイベントについては、回答が分かれており、住みたい時期は人それぞれである。

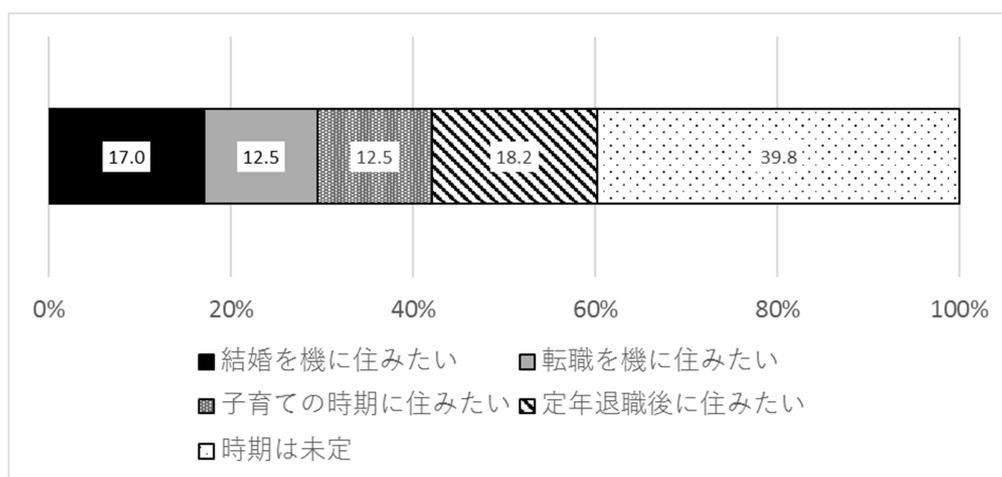


図4-6. 問25の回答分布 (n=88)

＜質問文＞

問 2 6 もし、滋賀県内で住むとしたら改善や整備を進めてほしいのは、どの分野ですか。
当てはまるものを以下から全て選んでください。

滋賀県内の改善して欲しい分野をみると、道路や鉄道などの交通網が最も多く、約半数の回答者が改善を進めてほしいと考えている（図 4-7）。そして若者の仕事の確保、子育て支援、商業施設といった項目が続く。若者にとって生活の基礎となる雇用や子育て、そして基礎的なインフラの整備が求められる。一方、回答が少ない分野は生涯学習や自然環境の保全といった項目である。男女別にみると、女性では子育て、女性の社会参加、医療体制、福祉サービスが男性に比べると必要だと考えている回答者が多い（図 4-8）。男性の方が必要だと考えている項目は少ないが、生涯学習、文化、スポーツ活動といった項目が女性に比べると改善して欲しいと考えているようだ。

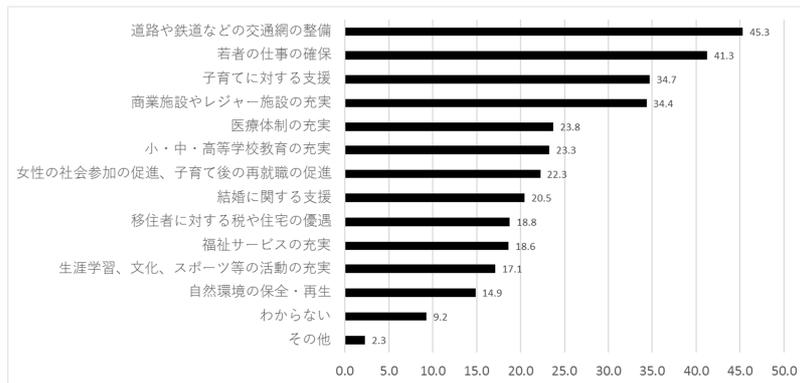


図 4-7. 問 2 6 の回答分布 (n=1406)

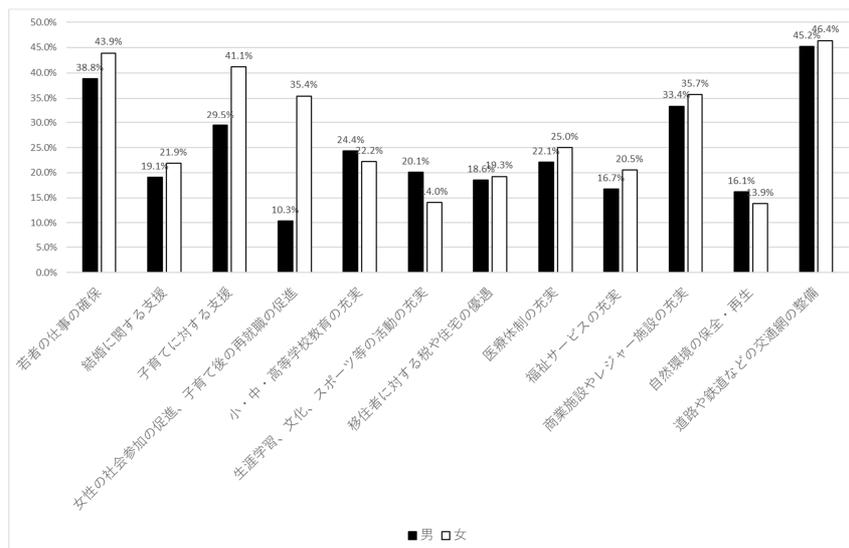


図 4-8. 問 2 6 の回答分布 (性別)

5. 滋賀県のイメージに関する分析

<質問文>

問27 あなたは、他人と比較して滋賀県のことをよく知っていると思いますか。

問28 あなたは、滋賀県に愛着がありますか。

他人と比較した場合の滋賀県の認知について尋ねると、知っていると考える回答者と知らないと考える回答者がほぼ半数程度である(図5-1)。なお、どちらについても、「ある程度」知っている回答者と「あまり」知らない回答者が多いことから、滋賀県について知っているが、他人と比較して多いのか少ないのか、明確に示すことができない回答者が多いのかもしれない。一方愛着についてみると、半数の回答者が愛着がある(とても愛着がある+ある程度愛着がある)と答えている点では同様の傾向を示しているが、「どちらともいえない」という問27にない選択肢が含まれているので、愛着がない(あまり愛着がない+愛着がない)と答えた回答者は23.7%と少ないようだ(図5-2)。

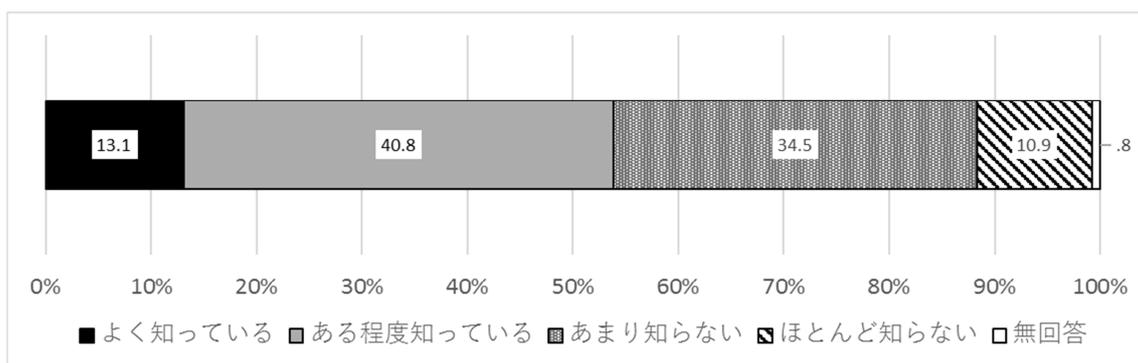


図5-1. 問27の回答分布 (n=1406)

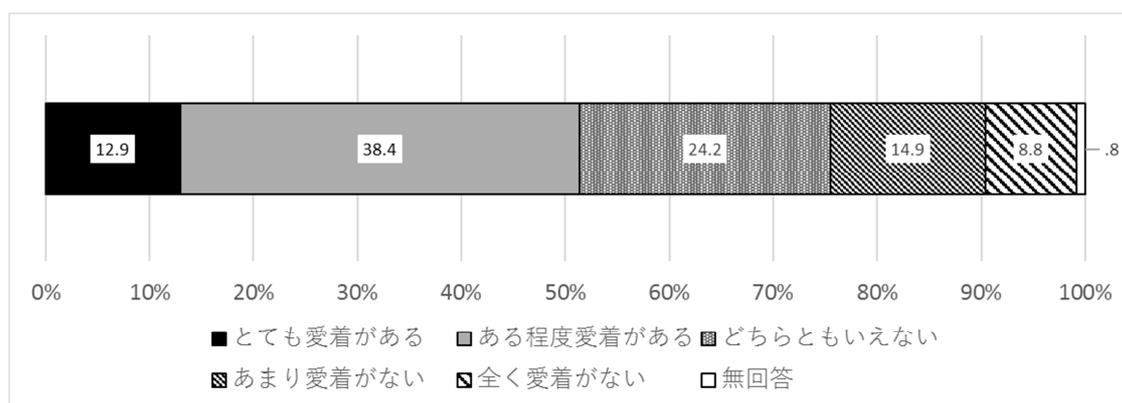


図5-2. 問28の回答分布 (n=1406)

滋賀県についての認知について学年ごとの回答分布をみると、知っている（よく知っている＋ある程度知っている）と答えている回答者の割合は短大生で最も多く、4年制大学では概して回生が上がるごとに増加している（図 5-3）。また、滋賀県への愛着についてみると、こちらも短大生がもっとも愛着が強く、4年制大学では概して回生があがるごとに増加している（図 5-4）。4年制大学では大学生活を送るにしたがって滋賀県のことについての認知が高まり、愛着も湧いてくるプロセスが考えられる。短大生の場合は、実家が滋賀県にある回答者が多く、滋賀県にこだわって大学を決めた回答者が多いことから、もとの愛着や認知の程度が高い可能性があるだろう。

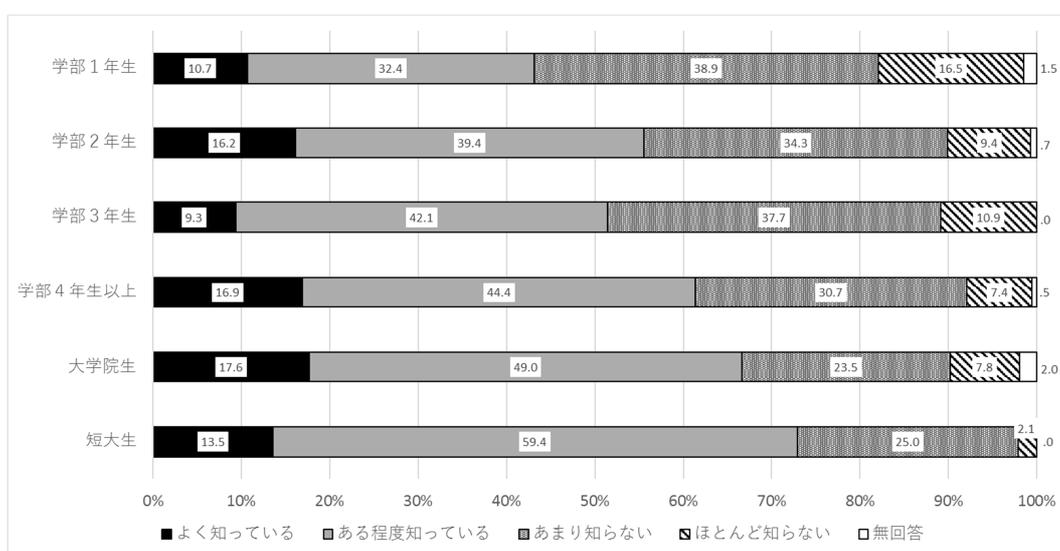


図 5-3. 問 27 の回答分布（学年別）

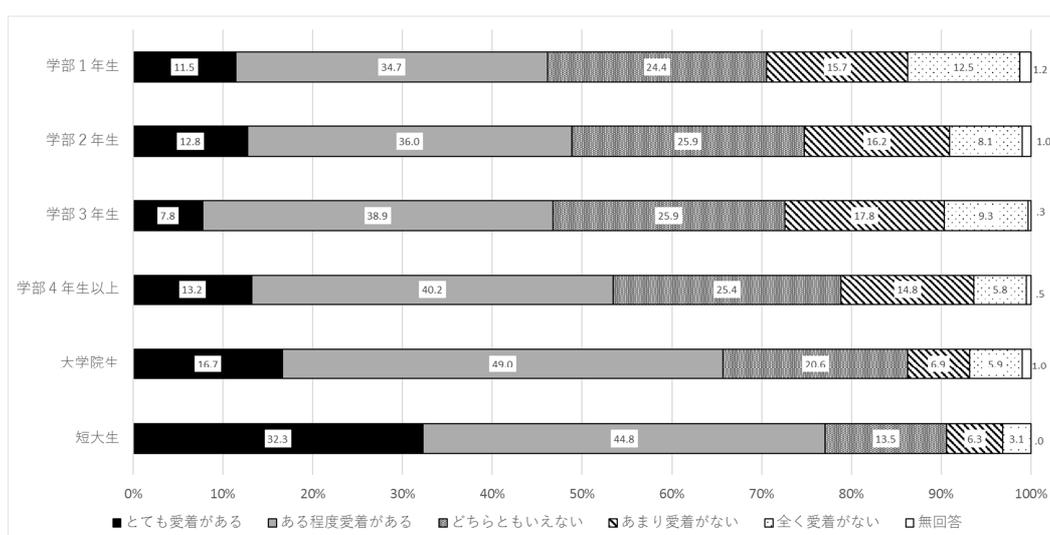


図 5-4. 問 28 の回答分布（学年別）

<質問文>

問29 あなたの滋賀県についてのイメージに近いものを全て選んでください。

滋賀県のイメージについては「自然や景観が美しい」という点を挙げる回答者が50.2%と最も多い(図5-5)。また「都市と田舎のバランスが良い」という回答が2位についていることから、自然の豊かさ、そして都市とのバランスに魅力を感じている回答者が多いようである。一方、市の賑わいの少なさや観光地が少ないことをあげている回答者もいることから、都市としての魅力に欠けると考えている回答者も少なからずいることがわかる。

回答者の少ない項目に着目すると、「活気がある」「創造性が高い人材」「充実した福祉」「先端産業」といったイメージはほとんどなく、回答している回答者の割合は数%である。ただし、イメージと現実とは完全に重なり合うものではないので、このようなイメージがないことは、学生がそのような情報に触れる機会が少ないということを示しているのかもしれない。

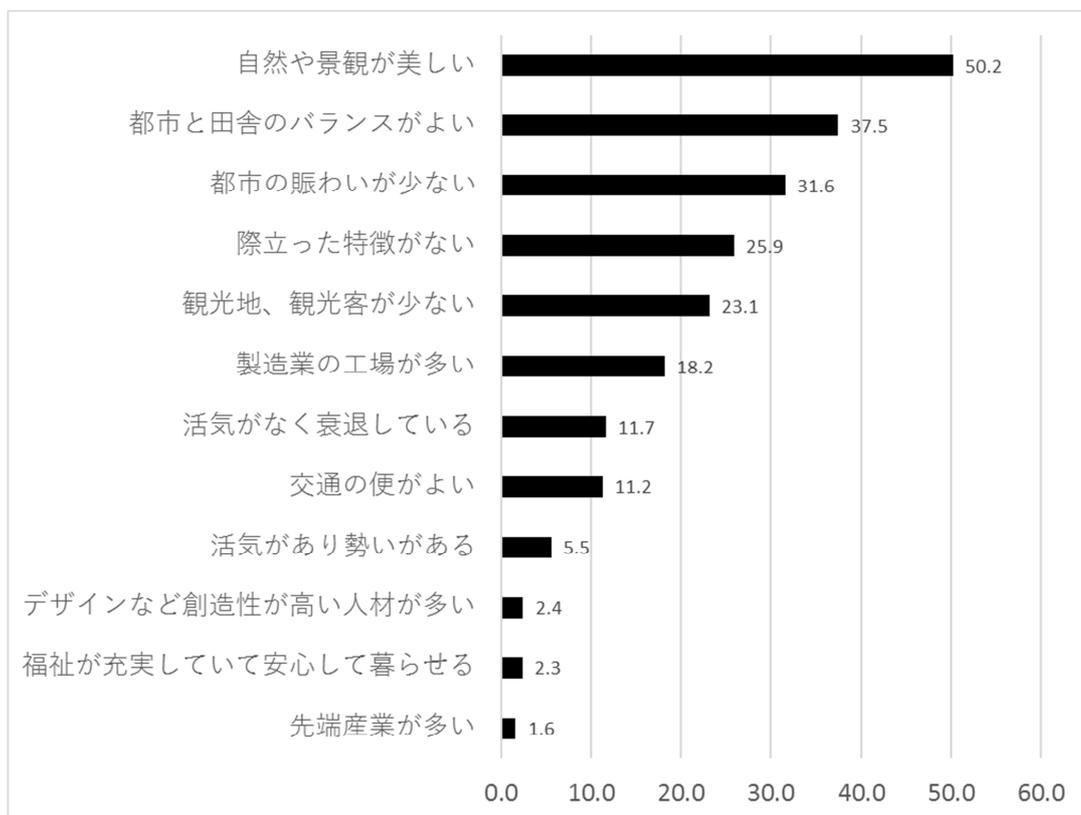


図5-5. 問29の回答分布 (n=1406)

滋賀県のイメージについて実家が滋賀県かそれ以外かに分けてみると、「自然や景観が美しい」と考えるのは滋賀県以外に実家がある人の方が多く、「都市と田舎のバランスがよい」と考えるのは滋賀県に実家がある人の方が多い(図5-6)。さらに「都市の賑わいが少ない」と考えるのは滋賀県以外に実家がある人が多いことから、滋賀県以外から来ている回答者は、都市的な要素が足りていないと感じていることが伺える。

ほかにも「製造業が多い」と考えている回答者は滋賀県に実家がある人が多く、滋賀県にいる時間の長さや地理的な要因が滋賀県における知識量に反映されていることがわかる。

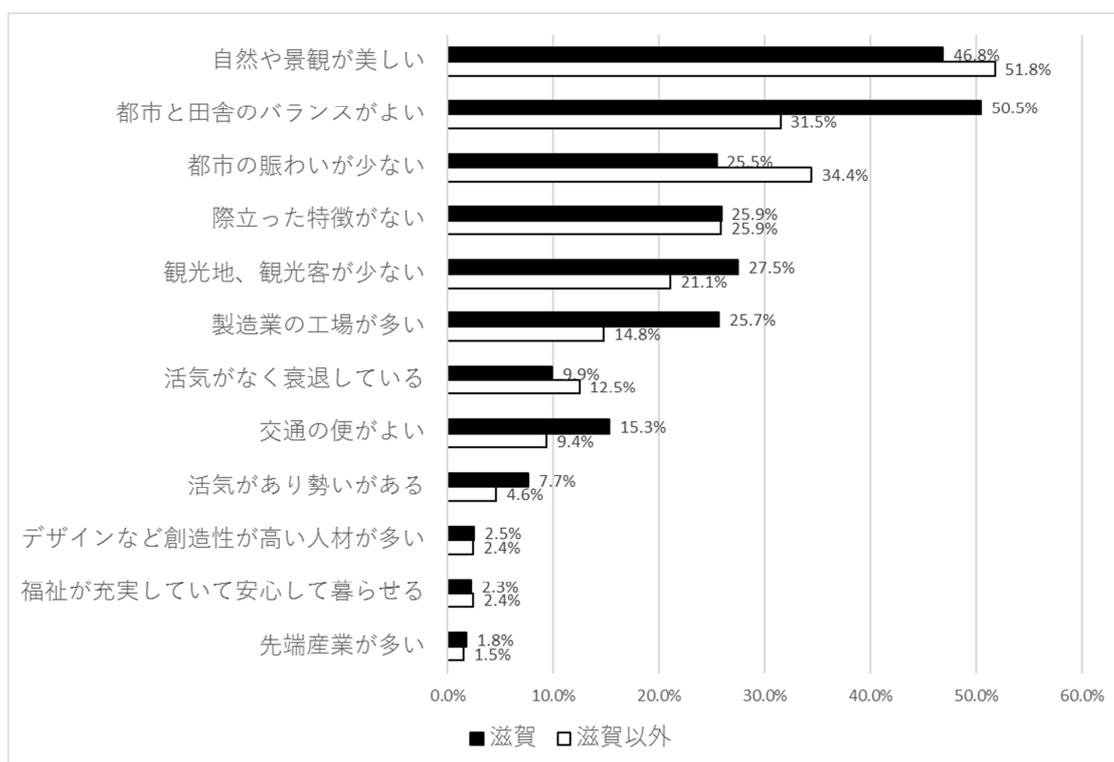


図5-6. 問29の回答分布(実家の所在地別)

<質問文>

問30 滋賀の以下の観光地・博物館などを訪れたことがありますか。訪れたことがあるものを全て選んでください。

滋賀で訪れたことのある観光地についてみると、彦根城が53.8%と最も多い(図5-7)。次に琵琶湖博物館の39.8%であり、訪れたことのある場所はこの2箇所が他を引き離している。一方、大学生が比較的訪れないのは、佐川美術館、近代美術館、ミホ・ミュージアムの美術館群である。

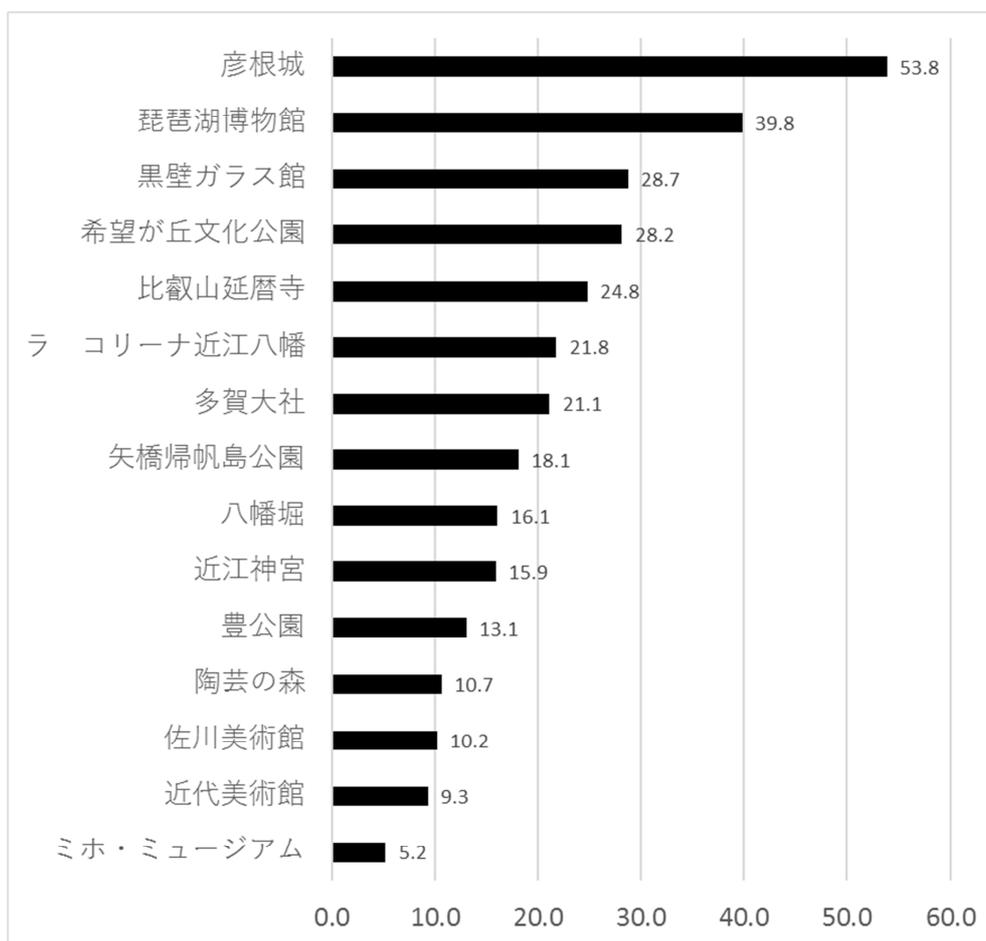


図5-7. 問30の回答分布 (n=1406)

滋賀県で訪れたことのある観光地・博物館などについて実家が滋賀県かそれ以外かに分けてみると、全ての観光地において滋賀県に実家がある人が上回っている（図 5-8）。特に琵琶湖博物館で 49.4 ポイント、黒壁ガラス館で 35.3 ポイント、希望が丘文化公園で 46.7 ポイント、多賀大社で 42.5 ポイントと差が大きい。差が小さい観光地をみると、比叡山延暦寺で 15 ポイント、ラ コリーナ近江八幡で 13.6 ポイントとなっている。全体の集計で見たように、美術館群については、滋賀県に実家がある人であっても、訪れることは少ないようだ。

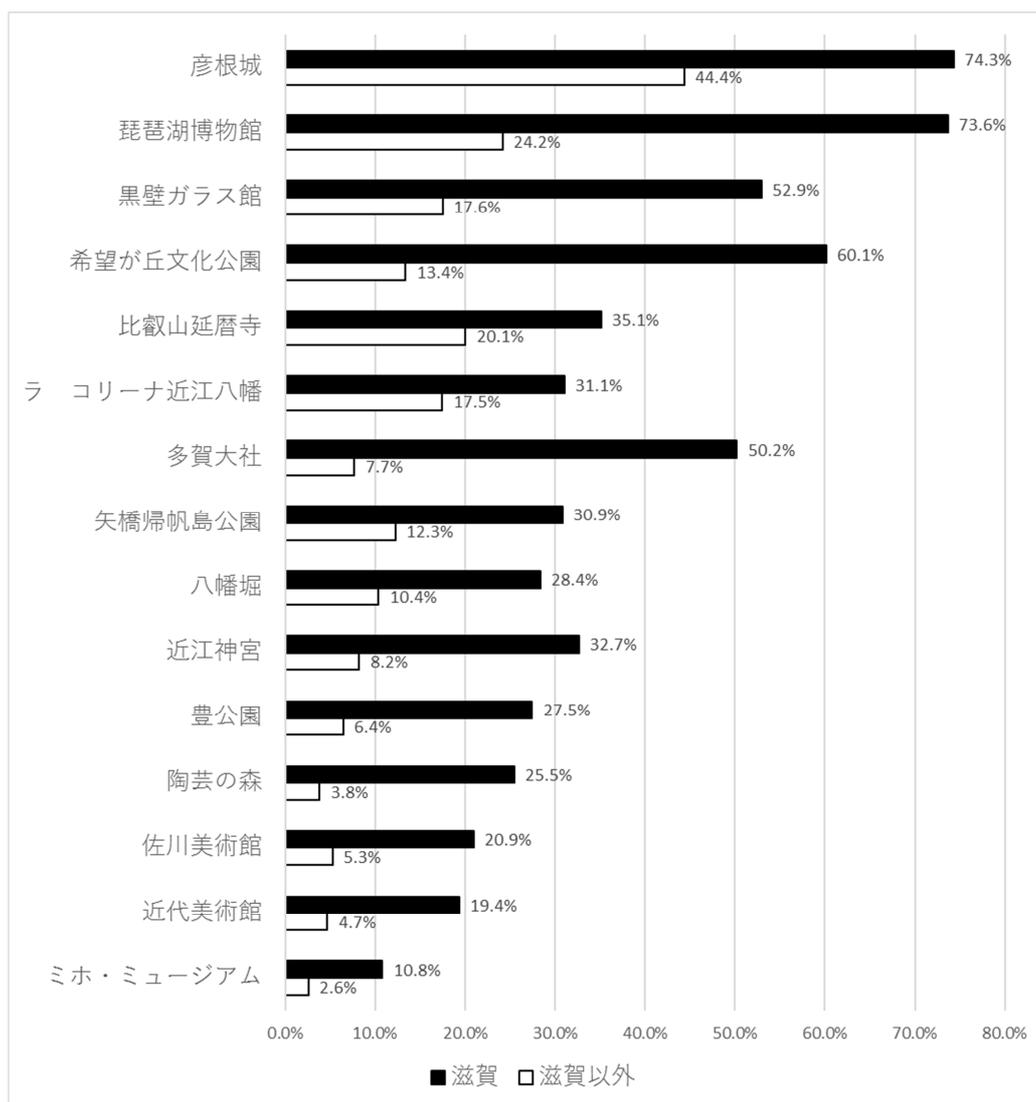


図 5-8. 問 30 の回答分布（実家の所在地別）

<質問文>

問3 1 滋賀県では7月1日を「びわ湖の日」と定め、住民が湖岸や河川の清掃活動などに取り組んでいますが、そのことを知っていますか。

問3 2 あなたは琵琶湖とどのような関わり方をしたことがありますか。当てはまるものを全て選んでください。

びわ湖の日について尋ねたところ、知らない回答者が64.6%と最も多い(図5-9)。一方、知っている回答者は34.1%であるが、知っているだけの回答者の方が多い。実際に活動したことのある回答者は8.7%と少ないようだ。

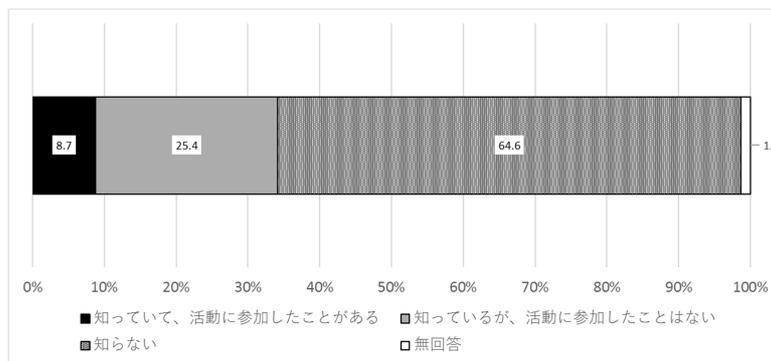


図5-9. 問3 1の回答分布 (n=1406)

琵琶湖とのかかわりについて尋ねたところ、景色を楽しんでいる回答者、水泳や水遊びをしたことのある回答者が4割程度と多く、続いて学習、レクリエーションと続く(図5-10)。サイクリングをした回答者はビワイチとビワイチ以外がそれぞれ8%程度であるが、ビワイチには準備や装備が必要なことを考えると、一定数の大学生がビワイチを楽しんでいる点は評価できる。

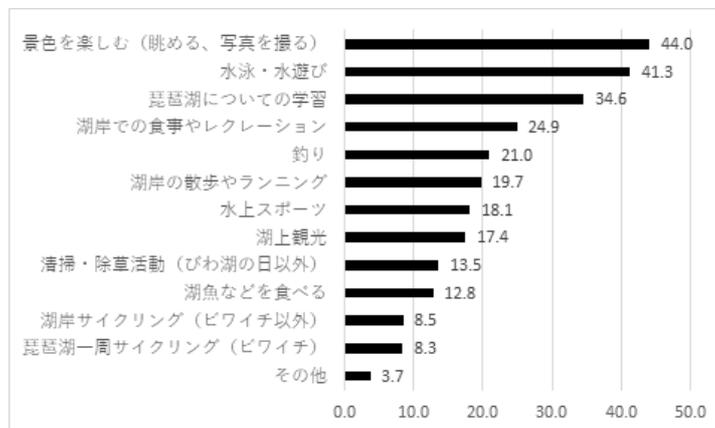


図5-10. 問3 2の回答分布 (n=1406)

6. その他の項目に関する分析

<質問文>

問33 これまでの大学・短大生活について、当てはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

- (1) 滋賀県内の企業について学ぶ機会
- (2) 滋賀県内の歴史や文化について学ぶ機会
- (3) イベントやボランティアなどで滋賀内の住民との交流

大学・短大生活での経験について、歴史や文化について学んでいる学生は約半数であるが、住民との交流は約4割、企業についての学びに至っては約3割と滋賀県内についての勉強する機会や住民との交流は多くないようである(図6-1)。特に企業についての学びに至っては約7割もの学生が「ほとんどなかった」あるいは「全くなかった」と答えている。

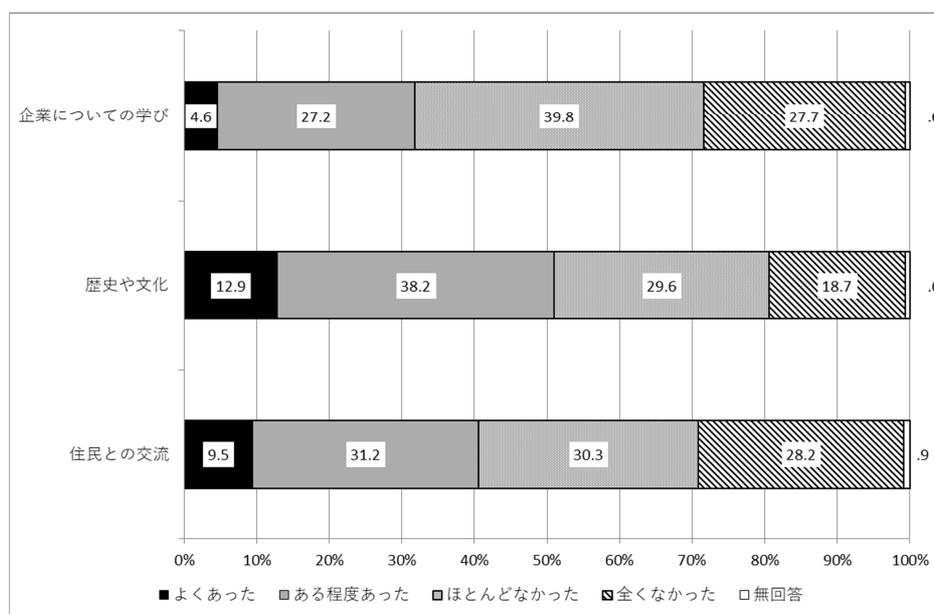


図6-1. 問33の回答分布 (n=1406)

それぞれの設問について大学・短大別にみると、大学によって、また設問の内容によって特徴が異なる(図6-2、図6-3、図6-4)。例えば、県内企業についての学びや歴史や文化について滋賀県立大学、成安造形大学、滋賀文教短期大学において比較的よく学ばれているようだ。一方、住民との交流についてはびわこ学院大学・短期大学部、滋賀文教短期大学、長浜バイオ大学でよく行われているようである。

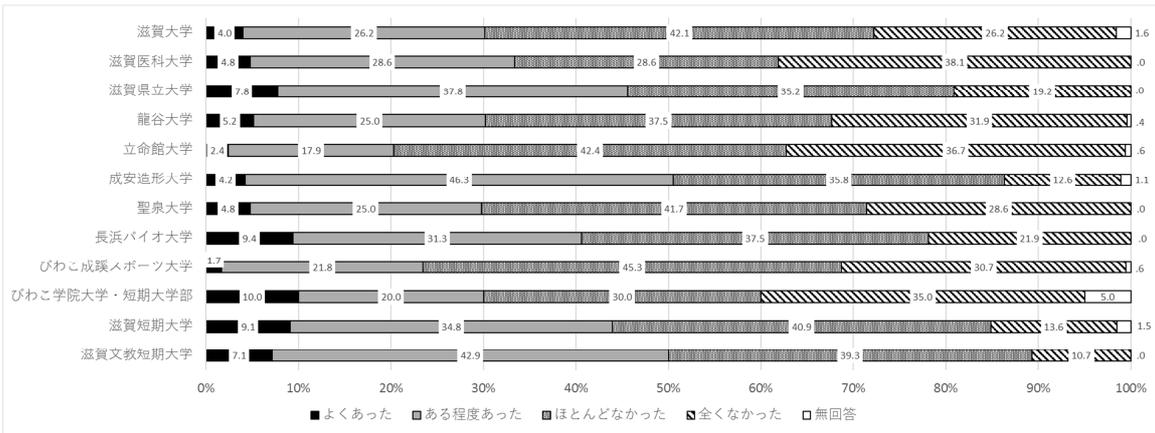


図 6-2. 問 3 3 - (1) の回答分布 (大学・短大別)

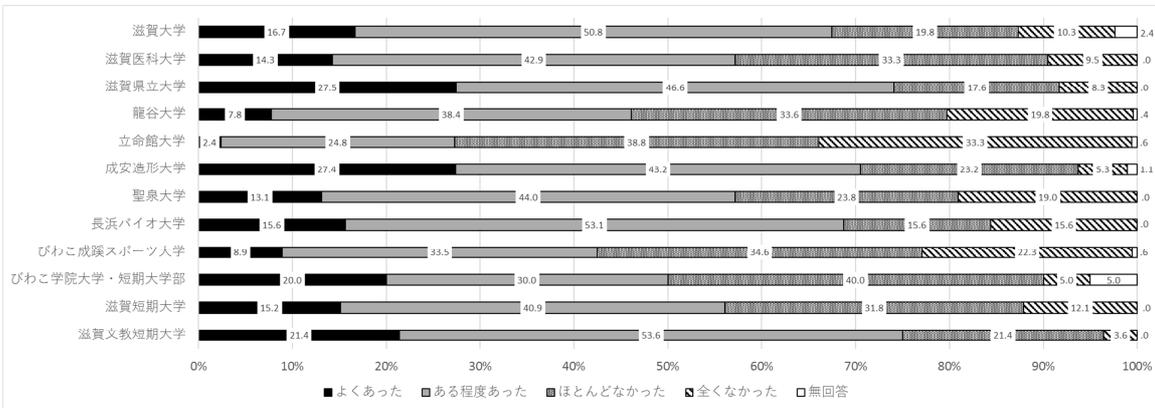


図 6-3. 問 3 3 - (2) の回答分布 (大学・短大別)

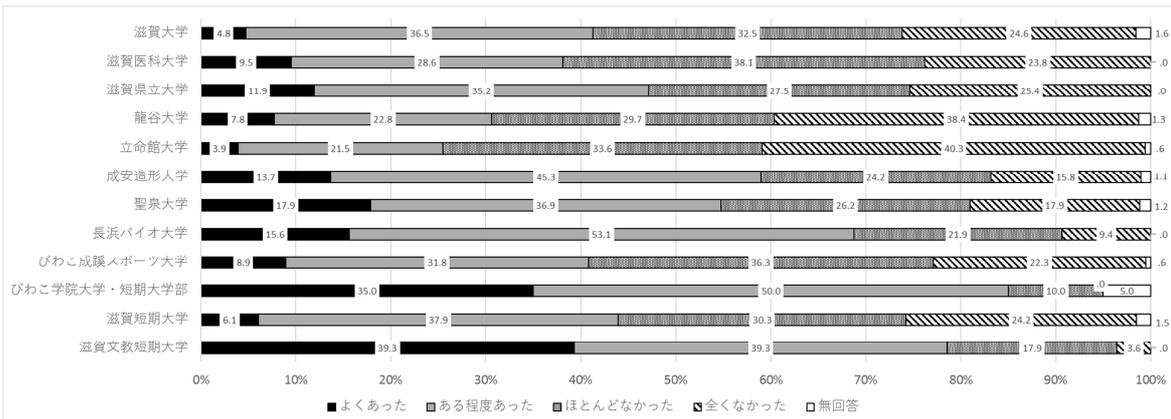


図 6-4. 問 3 3 - (3) の回答分布 (大学・短大別)

<質問文>

問34 あなたは2015年9月の国連持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」を知っていますか。

問35 問34で1. から4. と答えた方にお聞きします。どのような媒体で知りましたか、当てはまるものを全て選んでください。

「持続可能な開発目標（SDGs）」についてきいたところ、SDGsについて全く知らない回答者が65.4%であり、名前だけ知っている回答者（19.4%）と合わせると約85%であることから、ほとんどの学生はSDGsについて知らないようである（図6-5）。同じ質問項目について男女別にみると、男性の方がSDGsについて少しでも知っている層が多いが、その差は僅かである（図6-6）。

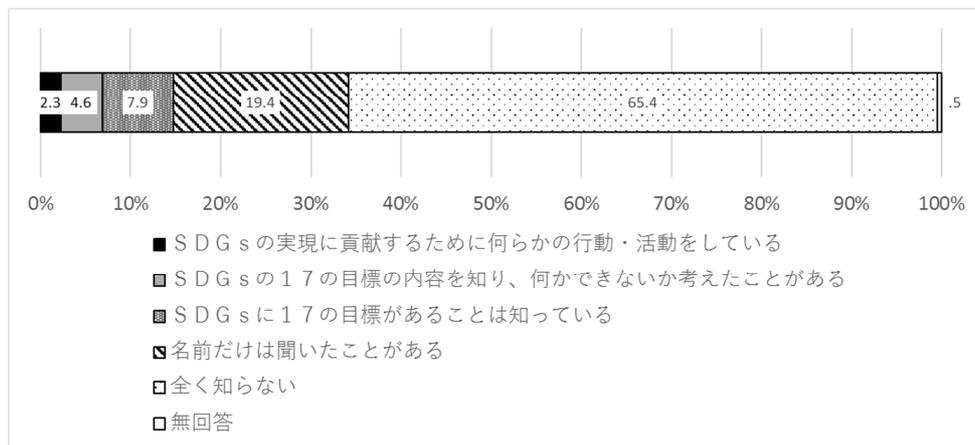


図6-5. 問34の回答分布 (n=1406)

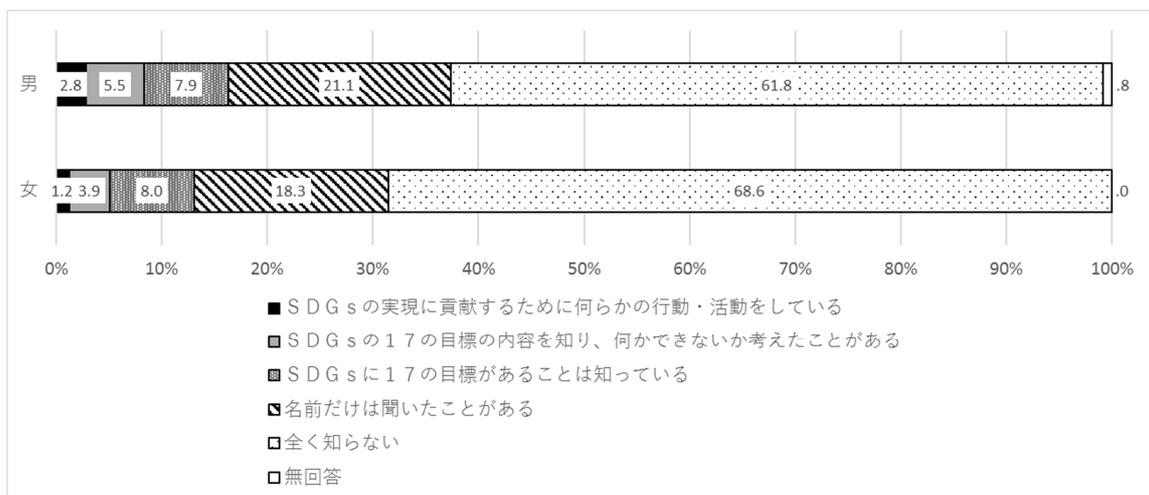


図6-6. 問34の回答分布 (性別)

さらに、よく知っている層から名前を聞いたことがある層に限定して、SDGsを知った媒体についてみると、新聞報道が最も多く、ついで大学での授業やイベント、インターネットなどで知る機会を得ているようである（図 6-7）。一方、街頭での掲示やイベント、行政の広報で知ったり、身近な人との会話の中でSDGsが出てきたりすることはまれである。

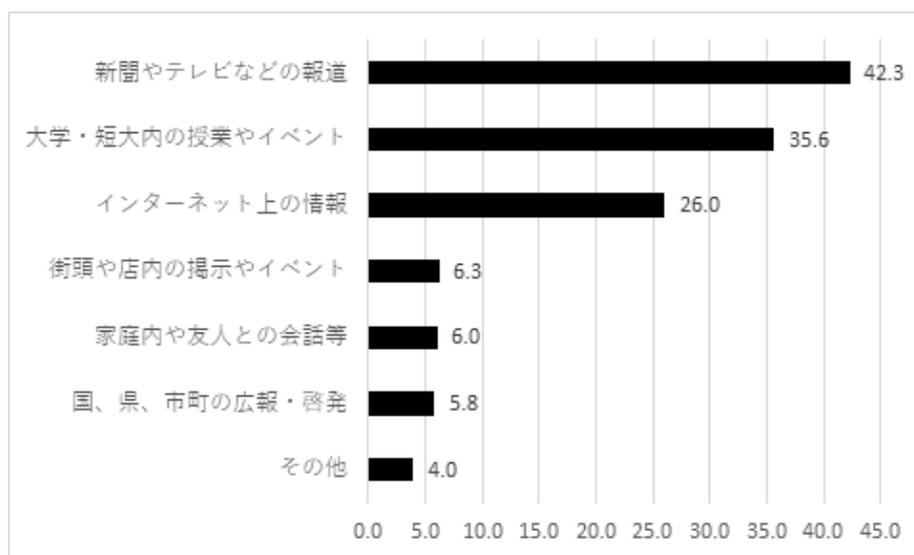


図 6-7. 問 3 5 の回答分布 (n=480)

<質問文>

問36 農山村における棚田の草刈りや農作業などのボランティア活動に参加したいと思いますか。

問37 農作業体験、農家レストランや農家民宿の利用などによる農山村住民との交流に参加してみたいと思いますか。

先ず農山村におけるボランティア活動についてみると、参加したいと思う回答者は36.7%であるのに対し、そう思わない回答者は47.7%であり、ボランティアに積極的な回答者の方が少ない(図6-8)。一方、農山村住民との交流になると、参加したいと思う回答者は44.1%、そう思わない回答者は40.6%と、若干であるが参加したい人が多いことがわかる(図6-9)。また、ボランティアと交流イベントを比べると、交流イベントのほうが参加したい回答者が多いことから、農作業だけでなく、レストランや民宿の利用などに興味をもつ回答者の方が多いようだ。

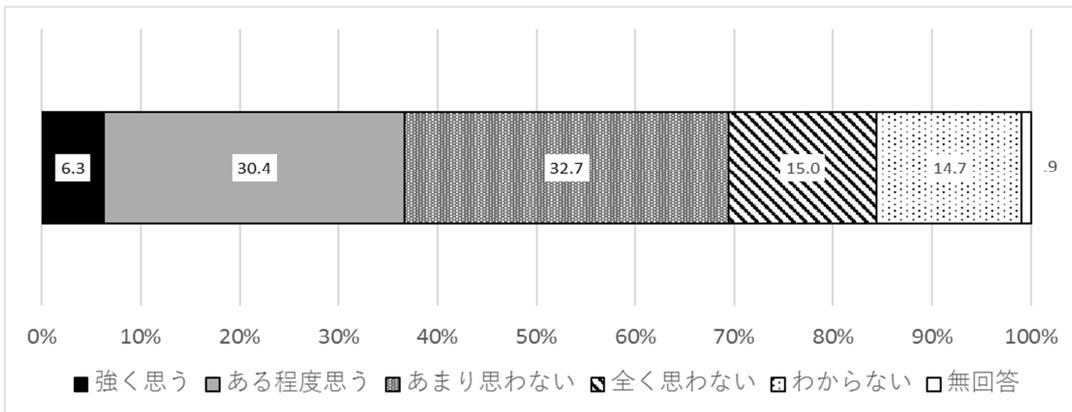


図6-8. 問36の回答分布 (n=1406)

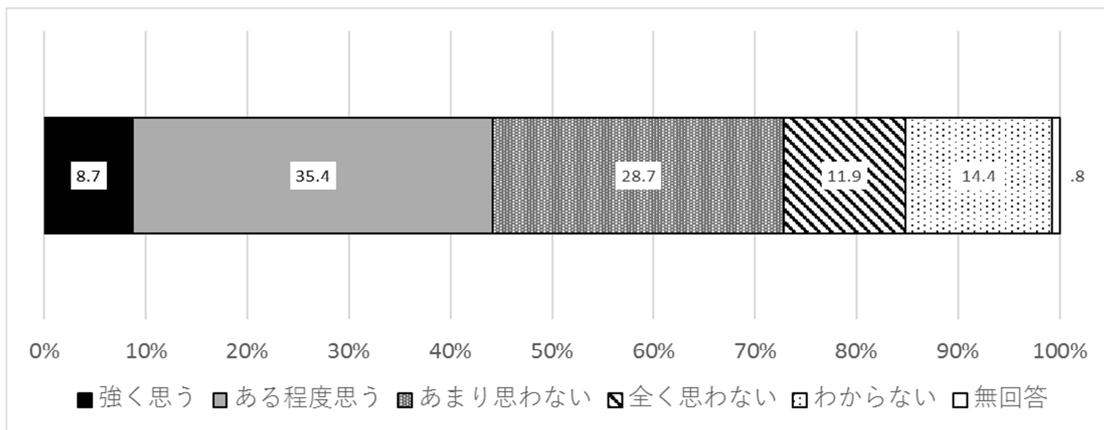


図6-9. 問37の回答分布 (n=1406)

ボランティアへの参加の意志について大学別にみると、長浜バイオ大学やびわこ学院大学・短期大学部で「強く思う」と答える回答者が多く、参加の意志が強いようである（図6-10）。また、「ある程度思う」まで含めると、滋賀大学、龍谷大学、成安造形大学、滋賀文教短期大学でも4割程度の学生が参加の意志を示している。農山村民との交流については、長浜バイオ大学、びわこ学院大学・短期大学部に加えて、龍谷大学、成安造形大学、聖泉大学なども強い参加の意志を示している人が多い（図6-11）。

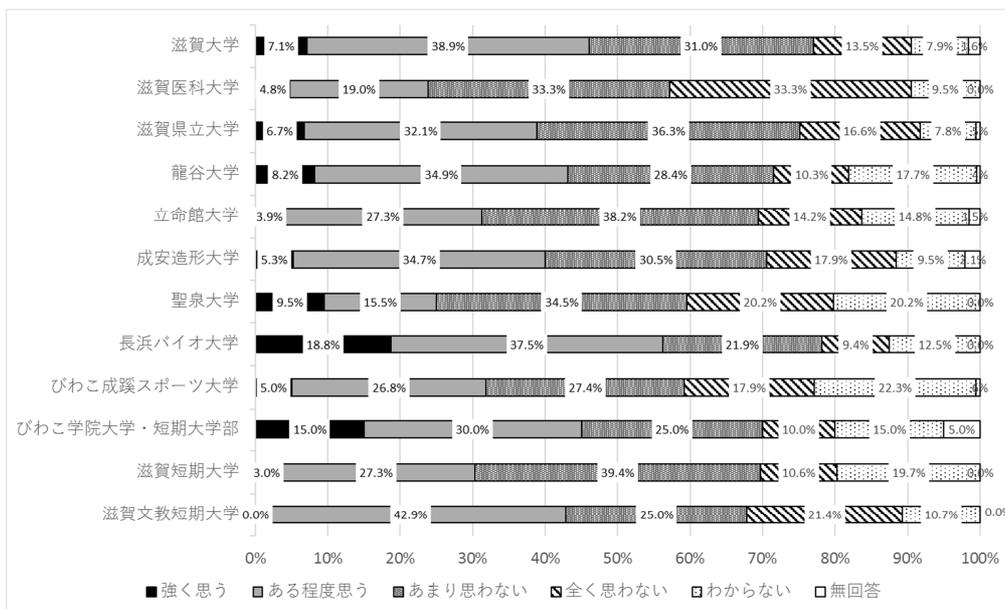


図6-10. 問36の回答分布 (大学・短大別)

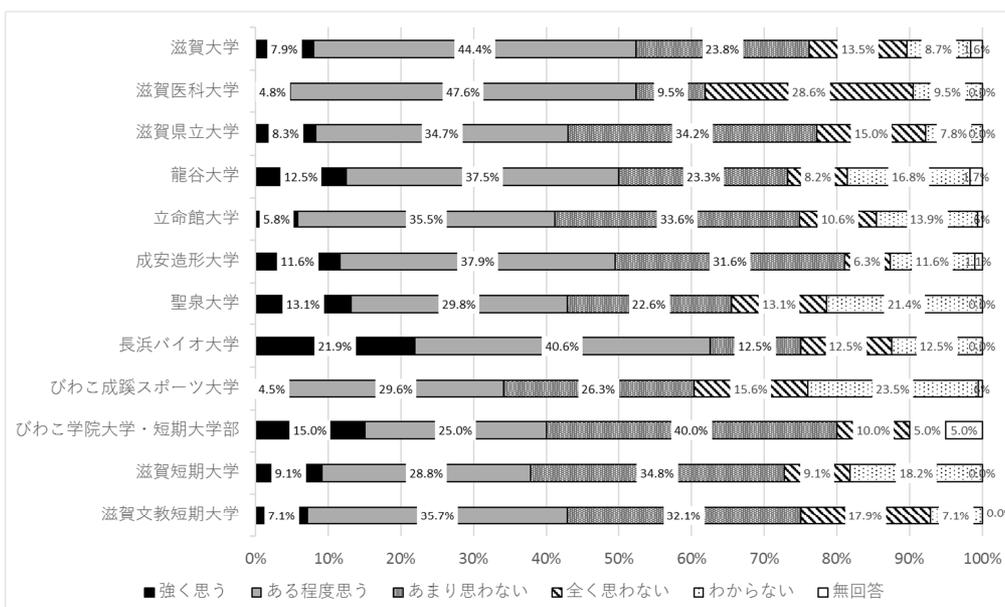


図6-11. 問37の回答分布 (大学・短大別)

7. 回答項目間の関連についての分析結果

7-1. 就職に関する意識

大学・短大の所在地へのこだわり（問8）と滋賀県での就職の希望（問10）の関連をみると、滋賀県にあることにこだわった回答者の半数以上が滋賀県での就職を希望しており、さらに18%もの回答者が条件次第では県内就職を希望していることがわかる（図7-1）。次に関西圏にあることにこだわった回答者でも約4割程度が、県内就職を希望／条件付きで希望している。一方、場所にこだわりのなかった回答者は、県外就職や場所へのこだわりが比較的小さいということがわかる。

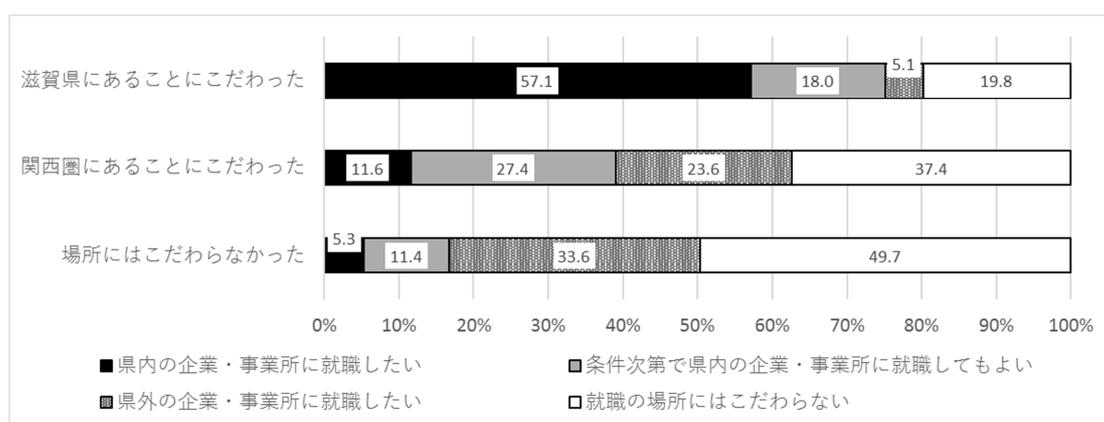


図7-1. 県内就職希望（大学の所在地のこだわり別）

就職希望の企業規模（問14）と滋賀県での就職の希望（問10）の関連をみると、公共機関や中小企業で働きたい回答者が、県内就職に関心があるようだ（図7-2）。一方で大企業やベンチャー企業に就職したい回答者は県外就職を希望している。

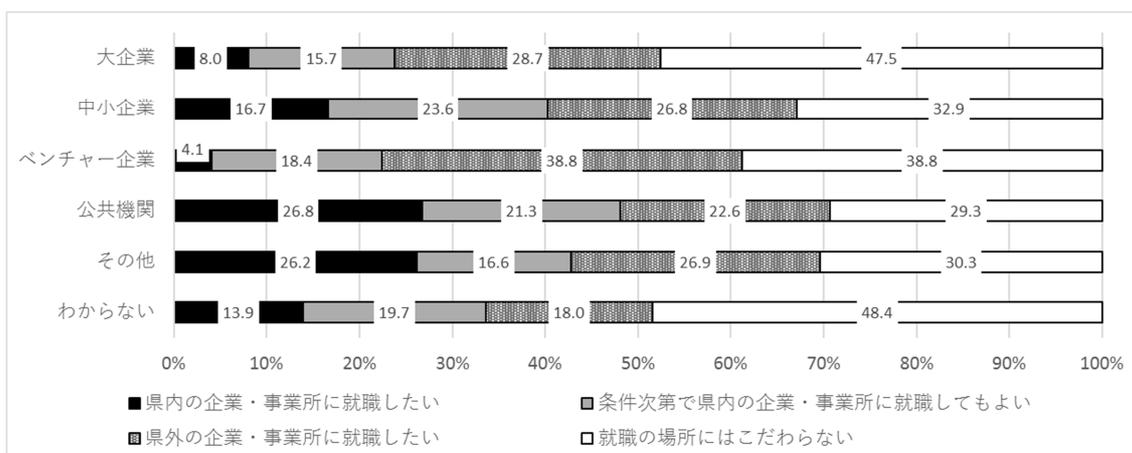


図7-2. 県内就職希望（就職希望の企業規模別）

卒業後の居住希望（問23）と滋賀県での就職の希望（問10）の関連をみると、居住希望と就職希望の関連は明確である（図7-3）。まず滋賀県に住みたい回答者の多くは県内就職を希望しており、条件付き希望まで含めると約8割が滋賀県での就職を希望している。また、「いずれ住みたい」と答えた回答者でも、条件付き希望を含めると約5割程度が、滋賀県での就職を希望している。一方、「住みたくない」と答えた回答者でも、条件付き希望を含めると約5割程度が、滋賀県での就職を希望している。一方、「住みたくない」と答えた回答者の56.1%は県外就職を希望していることから、就職と居住は強く結びついていることがわかる。

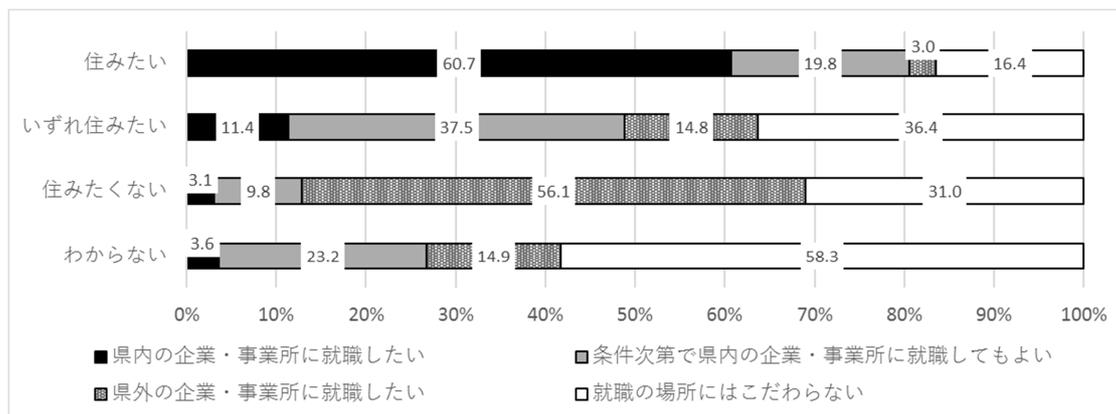


図7-3. 県内就職希望（卒業後の居住希望別）

滋賀県に対する認知度（問27）と滋賀県での就職の希望（問10）の関連をみると、よく知っている回答者の6割が、またある程度知っている回答者の4割が就職希望あるいは条件付き就職希望である（図7-4）。一方、あまり知らない、ほとんど知らない回答者は県外就職希望が3~4割と多い。

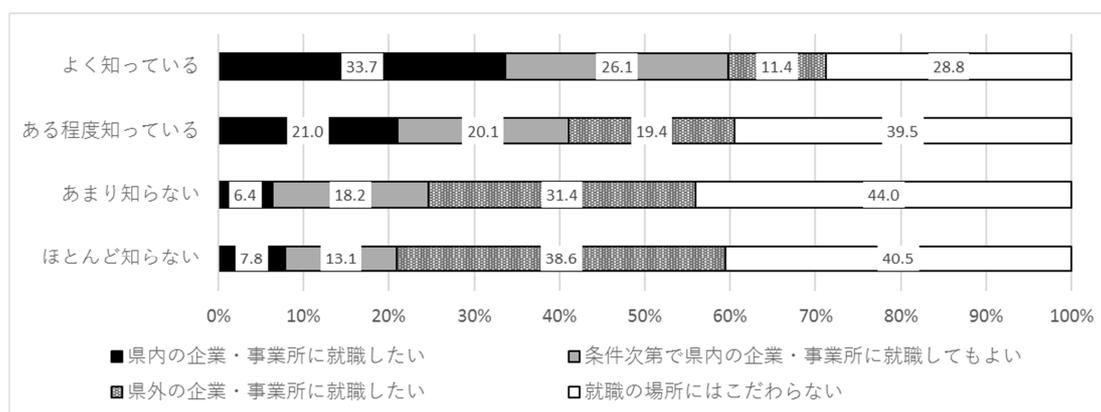


図7-4. 県内就職希望（滋賀県に対する認知度別）

滋賀県に対する愛着（問28）と滋賀県での就職の希望（問10）の関連をみると、滋賀県に対する認知度と同様の傾向がある（図7-5）。ただし、滋賀県に対する認知度と滋賀県に対する愛着では、滋賀県に対する愛着のほうがより明確に県内就職希望と結びついている。例えば、「あまり愛着がない」「全く愛着がない」と答えた回答者は、4~5割の回答者が県外就職を希望している。

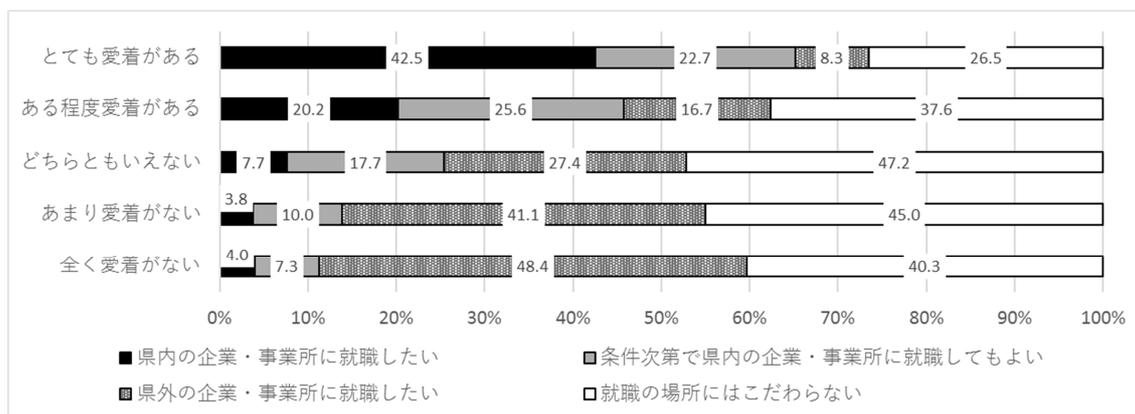


図7-5. 県内就職希望（滋賀県に対する愛着別）

県内企業について学ぶ機会（問10）と知っている県内企業数（問15）の関連をみると、概して学ぶ機会があった回答者ほど滋賀県の県内企業をよく知っている傾向がみられた（図7-6）。特に「よくあった」と答えた回答者では、5~9社、10社以上の回答者が共に10.9%であること、「全く知らない」と答えた回答者が21.9%と最も少なかったことから、大学・短大生活での学びの場は県内企業を知る上で重要な役割を果たしているといえる。

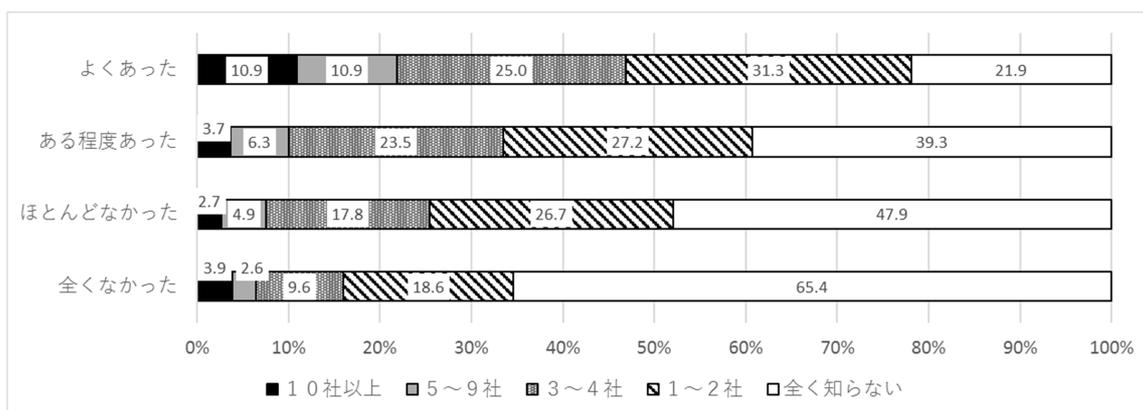


図7-6. 知っている県内企業数（県内企業について学ぶ機会別）

滋賀県内での就職希望（問10）と滋賀県内への就職を促すための取り組みの関連について、効果があるという回答の多かった「合同就職説明会・面接会」（問16-1）「インターンシップ」（問16-4）と「奨学金返還補助」（問16-7）についてみる（図7-7，図7-8，図7-9）。いずれの取り組みについても、結果は類似しており、条件次第の就職希望者が「大いに効果がある」と考える回答者が最も多く、県外希望者が最も少ないという特徴がある。

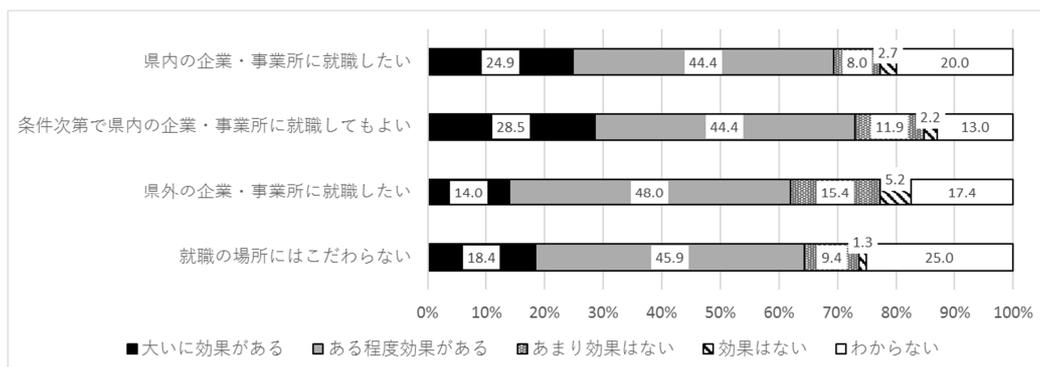


図7-7. 合同就職説明会・面接会の効果（県内就職希望別）

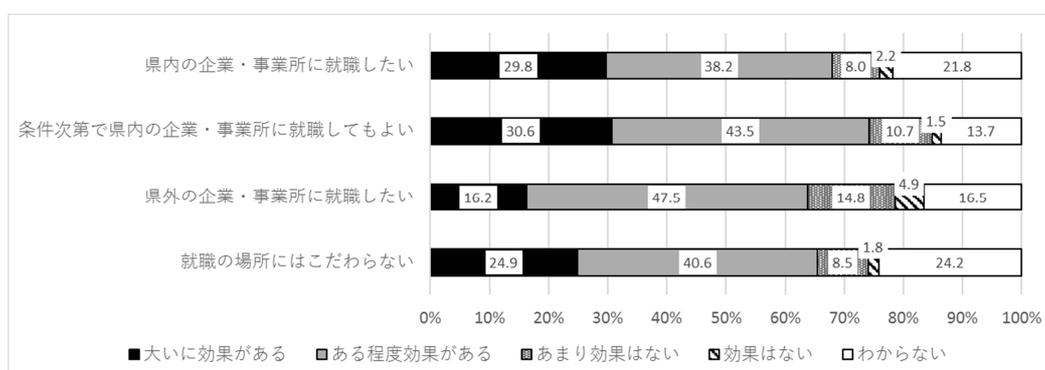


図7-8. 県内企業におけるインターンシップの効果（県内就職希望別）

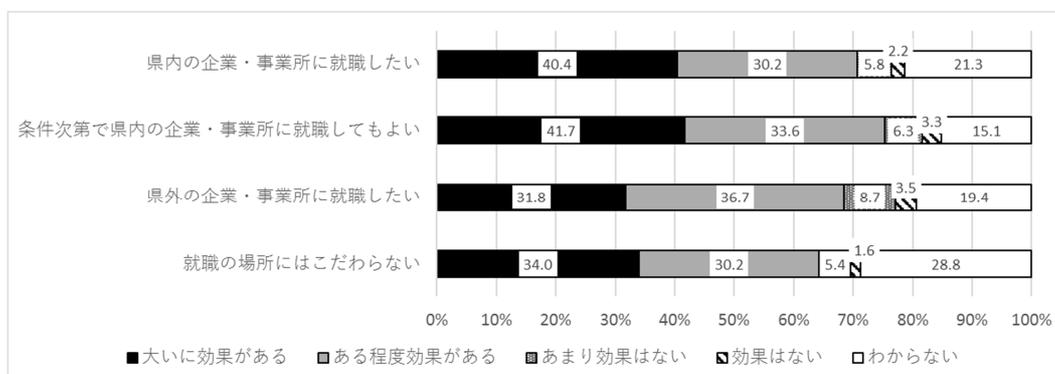


図7-9. 奨学金返還補助の効果（県内就職希望別）

働きたい職業について（問13）と県内就職希望（問10）の関連についてみると、就職希望が県内か県外かによって働きたい職業が異なるようだ（表7-1）。詳しくみると、県内就職希望は教育、医療・看護、介護・福祉に多く、条件付き就職希望になると、製造業、IT・通信、商社、行政、農林水産、建設、建築、不動産に多い。また県外就職希望では商社、広告、マスコミ、出版、金融に多く、場所にこだわらない回答者は旅行・宿泊・レジャー産業に多い傾向がある。

表7-1. 問13の回答分布（県内就職希望別）³

	製造業	教育	医療・看護	IT・通信	商社	広告、マスコミ、出版	行政	農林水産	金融	旅行・宿泊・レジャー	それ以外のサービス業	飲食	介護・福祉	小売	エネルギー（電力・ガス等）	建設、建築、不動産	コンサルティング、法律・会計事務所	運輸・物流	人材サービス・アウトソーシング
県内の企業・事業所に就職したい	10.7%	29.8%	28.9%	7.6%	4.9%	4.4%	10.7%	4.4%	4.9%	1.3%	5.8%	5.8%	12.4%	4.0%	4.0%	1.3%	.9%	1.3%	.9%
条件次第で県内の企業・事業所に就職してもよい	30.6%	15.5%	13.3%	15.9%	13.3%	10.0%	15.9%	10.7%	8.9%	7.7%	5.2%	6.3%	6.6%	5.5%	8.1%	6.3%	3.7%	4.4%	.7%
県外の企業・事業所に就職したい	17.0%	19.8%	14.7%	11.5%	13.5%	14.4%	8.3%	8.9%	9.8%	8.9%	6.0%	6.0%	4.9%	7.8%	4.0%	6.0%	3.4%	2.3%	4.0%
就職の場所にはこだわらない	23.3%	17.4%	12.9%	14.5%	10.6%	10.8%	6.8%	10.1%	7.9%	9.2%	8.6%	6.8%	4.5%	5.2%	6.1%	5.9%	3.4%	3.6%	2.9%
全体	21.1%	19.6%	16.0%	12.9%	10.9%	10.5%	9.6%	9.0%	8.1%	7.6%	6.9%	6.4%	6.3%	5.7%	5.6%	5.3%	3.1%	3.1%	2.4%

³ 最大値と最小値で5ポイント程度差がある項目について、最大値を示すセルに色を付けている。

7-2. 起業に関する意識

滋賀県内の企業について学ぶ機会（問33-1）と起業への関心の有無（問19）の関連をみると、滋賀県の企業について学ぶ機会が「よくあった」回答者は、起業に関心があるようだ（図7-10）。一方企業について学ぶ機会が「ある程度」より少なかった人々の間では、あまり差がない。

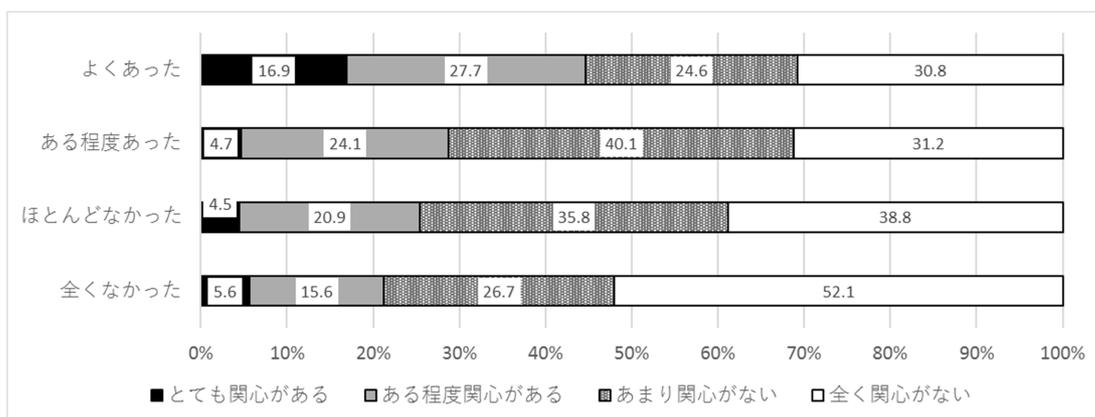


図7-10. 起業への関心の有無（県内企業を学ぶ機会別）

働きたい就職先（問14）と起業への関心の有無（問19）の関連をみると、ベンチャー企業で働きたいと回答した者が最も起業に関心があるようだ（図7-11）。その他の志望先についてみると、「わからない」と答えた回答者は起業に関心が少ないという特徴があるが、それ以外の志望先についてはあまり差がみられない。

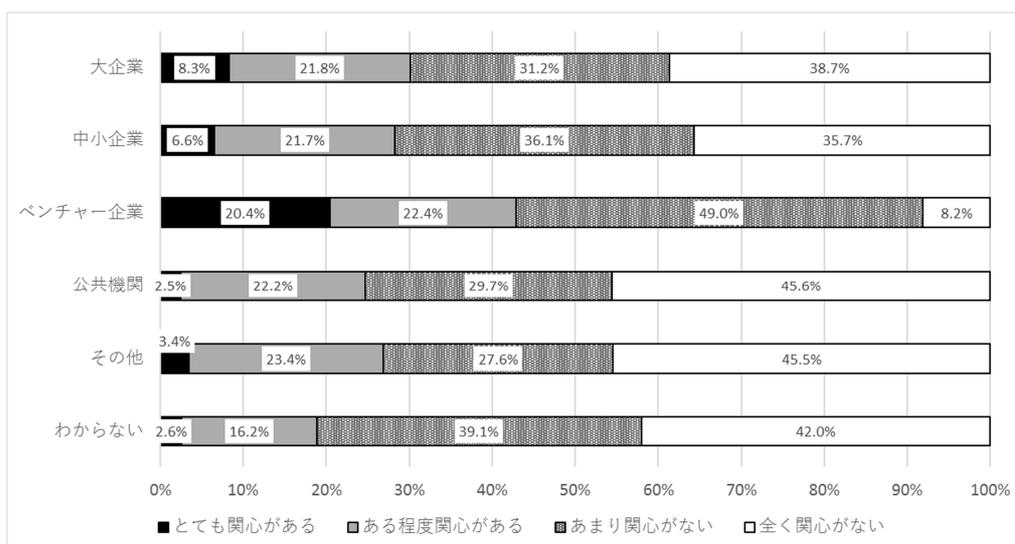


図7-11. 起業への関心の有無（働きたい就職先別）

起業への関心の有無（問19）と起業意識向上のために重要なこと（問22）の関連をみると、関心がある層と関心がない層の間で回答に差がある（図7-12）。関心がある層では、全ての項目においてより重要だと考えている。特にインターンシップと同級生・先輩との交流会については、全体の分析では約35%だったが、関心がある層では約45%となり、一定の需要があると考えられる。

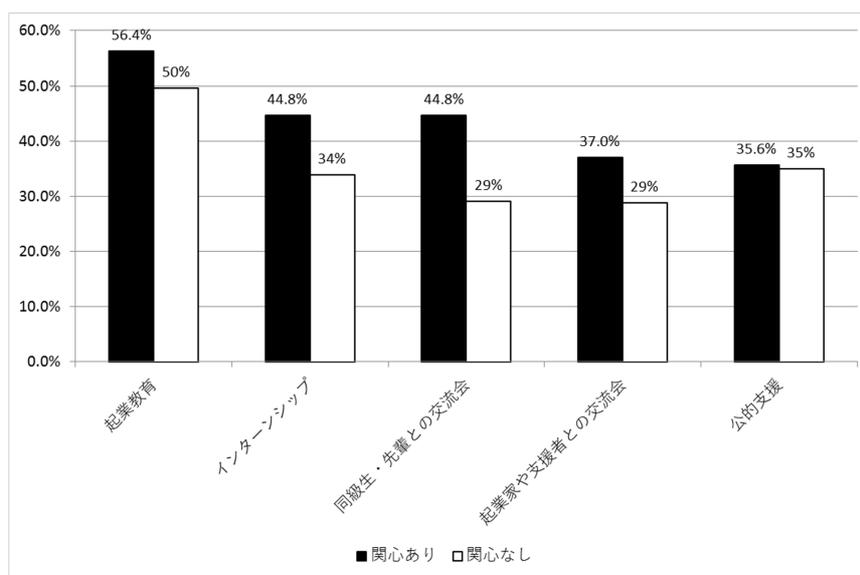


図7-12. 起業意識向上のために重要なこと（起業の関心の有無別）

働きたい就職先（問14）と企業意識向上のために重要なこと（問22）との関連をみると、全体で最も割合の高かった「起業教育」については大企業志望の回答者が最も重要だと考えているが、ベンチャー企業志望の回答者では28.6%と最も少なかった（表7-2）。このベンチャー企業志望者については、インターンシップ、資金、交流会と行った、より実質的な支援の方が重要だと考えている。

表7-2. 起業意識向上のために重要なこと（働きたい就職先別）

	大学・短大における 起業教育の実施	ベンチャー企業での インターンシップの 実施	資金調達や販路開拓 などに対する公的支 援	起業をめざす同級生 や先輩との交流会の 実施	ベンチャー経営者や 支援者との交流会の 実施
大企業	55.9%	39.1%	30.6%	29.8%	34.7%
中小企業	48.4%	35.8%	37.0%	28.9%	30.1%
ベンチャー企業	28.6%	61.2%	40.8%	53.1%	38.8%
公共機関	54.4%	38.9%	28.9%	35.6%	37.2%
その他	48.3%	29.7%	29.0%	26.9%	33.1%
わからない	49.9%	32.2%	35.7%	27.8%	36.2%
全体	51.0%	36.6%	32.9%	30.6%	34.7%

7-3. 定住に関する意識

卒業後における滋賀県での居住希望の有無（問23）と滋賀県の改善点（問26）の関連についてみる（図7-13）。この図では滋賀県に「住みたい」「いずれ住みたい」と答えた回答者をまとめ、「住みたくない」「わからない」の3つに分け、滋賀県の改善点について選択した割合を示している。「住みたい」「いずれ住みたい」と答えた回答者の方が、結婚に対する支援、子育てに対する支援、女性の社会参加に対する支援、学校教育への支援など、多くの支援が必要だと感じていることがわかる。一方「住みたくない」と答えた回答者は、多くの項目で改善点を選択した割合が少ないが、商業・レジャー施設の充実や交通網の整備については「住みたい」「いずれ住みたい」者よりも多く選択している。「わからない」と答えた層は「住みたい」「いずれ住みたい」と答えた層と同様の反応が見られるが、移住支援では「わからない」と答えた層で選択した回答者が多いことが分かる。

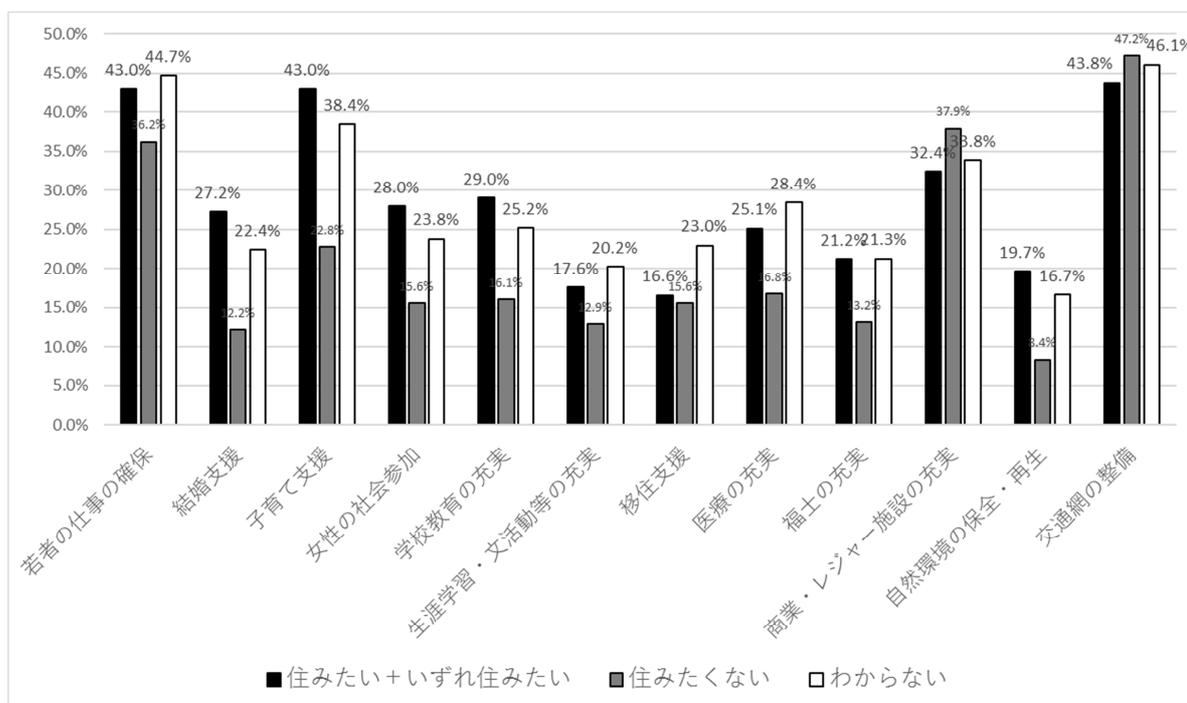


図7-13. 滋賀県の改善点（滋賀県居住希望別）

7-4. 滋賀県のイメージ

滋賀県に対する認知度（問27）と滋賀県に対するイメージ（問29）の関連についてみる。この図（図7-14）では、滋賀県に対して「よく知っている」「ある程度知っている」と答えた回答者を「知っている層」とし、「あまり知らない」「ほとんど知らない」と答えた回答者を「知らない層」として、層別に滋賀県に対するイメージを選択した割合について示している。この図によると、知っている層と知らない層で、滋賀県に対するイメージが異なる傾向にあり、肯定的な側面（都市と田舎のバランス、自然や景観の美しさ）については「知っている層」が認知し、否定的な側面（都市の賑わいの少なさ、特徴がない）については「知らない層」が認知していることがわかる。またそれ以外にも製造業の工場が多いことについては「知っている層」の方が多くことから、文字通り知っている層は滋賀県について正確なイメージを持っていることがわかる。

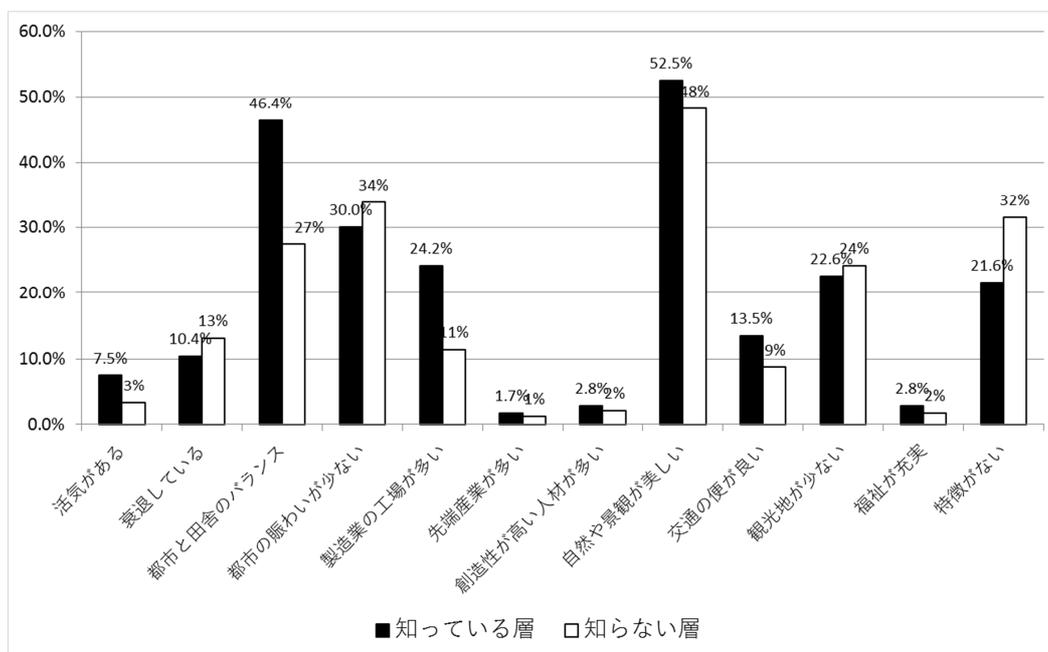


図7-14. 滋賀県のイメージ（滋賀県に対する認知度別）

「滋賀県への定着等に関する大学生意識調査に基づく政策研究」調査報告書

2018（平成30）年3月発行



一般社団法人 環びわ湖大学・地域コンソーシアム

〒520-0056 大津市末広町1番1号日本生命大津ビル4階

TEL : 077-526-8850 FAX : 077-526-8851

この報告書は平成29年度「滋賀県大学連携政策研究事業（滋賀県委託）」により作成しました。